

〔資料〕

妙幢淨慧撰『佛神感應錄』翻刻と解題(一)

阿部美香・大久保美玲・塚本あゆみ・関口静雄

〔解題〕

近江湖東の学摩訶衍沙門弄幻子、すなわち黄檗の禅僧妙幢淨慧が撰述した『佛神感應錄』を翻刻紹介する。すでに渡浩一・西田耕三・藤谷厚生氏等のご研究¹⁾によって、妙幢淨慧は弄幻子・空幻子・如幻子・妙幻散人・求化幻人・四宗兼学沙門など多様な名乗りをもって、

・『懺悔通用』一卷(貞享元年(一六八四)七月叙)

・『戒法隨身記』三卷(上卷「三帰章」貞享三年七月刊、中卷「五戒章」同年

七月刊、下卷「八斎戒章」同年九月刊)

・『延命地藏菩薩経和談鈔』五卷(貞享四年正月刊)

・『漢朝序金剛経靈感録』三卷(貞享五年七月跋。上卷「金剛経感応伝」、中

卷「金剛経新異録」、下卷「金剛経靈験伝」)

・『地藏菩薩利生記』六卷(貞享五年三月刊)

・『地藏菩薩利益集』五卷(元禄四年(一六九二)七月刊)

・『古今舍利験論』三卷(元禄四年七月刊)

・『益供私記』一卷(元禄十一年六月刊)

・『十善戒法論』五卷(元禄十二年二月刊)

・『佛神感應錄』十五卷(前集八卷宝永七年(一七一〇)九月刊、後集七卷

宝永八年正月刊)

など多数の著作を版行し、また天台座主良助法親王撰『与願金剛地藏菩薩秘記』一卷(元禄三年正月刊)、明末の天台僧藕益智旭述『讚礼地藏菩薩懺願儀』一卷(刊年不明)を翻刻版行するなどして貞享・元禄期に地藏信仰を鼓吹し、また戒律復興に尽力した禅僧であったことが明らかにされている。淨慧には右掲のほかにも写本で伝わる『儒釈雜記』七十二卷の著述が

あって、これをもとに西田耕三氏は淨慧の生涯と行業を詳細に考究され、淨慧は詩を断念して僧となったが、文辞の世界に造詣が深く甚深の才能を有する人物であったと指摘されている。しかし淨慧の行実については自身による、あるいは後人によるまとまった履歴・伝記類が見当たらず、いまだ不明な点が少ない。

洛東一心山専念寺隆円が淨慧没後七十七年に記した『妙幢和尚略伝』²⁾

(享和二年(一八〇二)十一月八日記)は貴重な伝記資料であるが、順阿隆円

も「いまだ氏族をしらず」「いまだその行履をつばらにせざりし」「いまだ世寿僧夏をしらず」と歎じているように、そのころすでに淨慧の生涯は不明の雲に覆われていたのである。それでもしかしこの『妙幢和尚略伝』等によって淨慧の生涯の輪郭をたどれば、妙幢淨慧は慶安の頃(一六五〇年前後)近江国彦根に医業をもって井伊侯に仕えた家に生まれ、少年のころ京に遊学して儒を松永昌易に学び、かたわら詩文に親しんだ。父母没後、二十四歳のとき妻子を捨て、黄檗の宝山最頂に従って剃髪受戒し、その師筋にあたる鉄眼道光に楞嚴・維摩・法華の三経を学び、また近江日野正明寺の寂門道律に依止して律儀を薫鍊し、さらに洛東獅谷法然院の信阿忍激に参じて本願念仏の要義を聞くなど、禅を宗としたが学は広く内外にわたり、あまねく諸宗に通暁した。地藏菩薩にふかく帰依し、しばしば感應を蒙ったと伝え、地藏信仰を鼓吹しながら真言律の復興にもつとめた。はじめ江州平坂村箕山小松寺に住し、次いで江戸東叡山下で修行し、また真言律の和州生駒長命寺に住持し、その後彦根藩主井伊直興に用いられ、彦根大洞弁財天堂長寿院、近江八幡奥嶋延命寺、駿州島田都智山白岩寺に寓居し、いたるところで弘法度生に精励した。京都般舟三昧院のつとめを経て、

晚年洛西北野不動院に退隱して戸を閉じ、享保十年（一七二五）二月十四日に没したようである。

貞享元年自恣日に『懺悔通用』一卷を著して懺悔の法を唱導する庶民教化の勸化僧として世に出た淨慧は、また地藏信仰を鼓吹する先達として元禄初年にはすでに著名な存在だった。越前敦賀浄土宗江福山福伝寺の読譽龍山必夢はその『二十五菩薩引接鼓吹』七卷（貞享五年八月刊）・『延命地藏菩薩経直談鈔』十二卷（元禄十年二月刊）に淨慧の序・跋を得て親交し、江戸始めの六地藏建立を発願した下谷池之端浄土宗影向山心行寺二世の慈濟菴空無は『巡六地藏慈悲利益記』一卷（宝永四年淨慧序。松会三四郎刊。駒澤大学図書館蔵）「第廿五、谷中感應寺京都壬生延命地藏移造立之事」に、妙幢禪師は四宗を兼学し、その行法は堅固であって、ことに仏菩薩を造立する志は諸僧に超過していた。武州に地藏菩薩を二度建立したのは、地藏薩埵の悲願を仰ぎ、男女に信心の利益を施さんとの深重の誓願によるものだった。禪師は江戸東叡山内に丈六座像を八尺に造立したが、焼失したので他所に再興し、また谷中感心寺に京都の壬生地蔵と同体の像を造立したと伝え、「妙幢とは。地藏の異名なり。しかれば。今壬生のうつしを作。律師妙幢はその体各別にして。名は一名なれども。名躰不離と。見ときハ。地藏全。地藏を作なり。」と記し、妙幢は地藏の異名だから、妙幢淨慧すなわち地藏が地藏像を作ったのであると称賛傾倒している。また河内薬樹山延命寺の無尽蔵惟宝蓮体（一六六三—一七二八）はその『真言礦石集』四卷（元禄六年（一六九三）正月刊）の叙に「頃年妙幢禪師。復撰利生記。及利益集。宇宙之感應。昭昭乎可見焉。而予所見聞。數十條。獨り漏り二部ノ之搜羅。復不能無遺憾矣。肆不顧鄙醜。漫リニ作編輯ヲ。因ニ載ニ報應之說ヲ終ニ歸ニ於秘密ニ。題シテ曰フ礦石集ト分テ爲ニ四卷ト。配ニ于彼ノ四親近ニ。亦有ニ微意ニ耳。」と記し、本書刊行の動機のひとつに淨慧の『地藏菩薩利生記』六卷・『地藏菩薩利益集』五卷の遺漏を補うことにあったと独白している。蓮体はその生涯に八十余の著作をのこし、『真言礦石集』はじめ『觀自在菩薩冥心集』六卷（宝永三年（一七〇六）十一月刊）・『觀自在菩薩冥心集続』六卷（宝永年間（一七一〇）刊）・『毘沙門天王秘宝藏』五卷（享保二年（一七二七）四月刊）・『続礦石集』

四卷（享保十年（一七二五）二月刊）など真言律僧の立場から巷間衆庶を教化するために著述した仏教説話集があるが、その記念すべき最初の『真言礦石集』の版行に淨慧の影響があったことは知っておいてよい。

蓮体は粉郷河内鬼住に薬樹山延命寺を開き、延宝二年（一六七四）三月和泉神鳳寺の快円慧空から菩薩戒を受け、新安祥寺流を鼓吹して徳川五代將軍綱吉と柳沢吉保の外護を受けて江戸湯島に宝林山靈雲寺を建立し、如法真言律を唱えて鉄眼道光の黄檗版大蔵経（黄檗蔵）に秘密儀軌を編入せしめた寛彦淨嚴（一六三九—一七〇二）の高足であり俗甥であって、延宝二年正月十二歳で出家して以後三十余年間つねに淨嚴に随従した。淨嚴は寛文九年（一六六九）に鉄眼道光が明版大蔵経を復刻開版する大事業を起こしたことを知って早速これを購入し、黄檗蔵未蔵の高麗蔵秘密儀軌八部七十四冊の編入を企図し、これを道光に伝えるために延宝二年暮に上洛した。そのとき少年僧蓮体も随従したはずで、鉄眼やその後継宝洲道聡と面識を得たことは『淨嚴大和尚行状記』（二卷。元禄十五年十二月蓮体録）上卷に「道光禪師、問訊慇懃ナリ」「宝洲相統テ問候丁寧ナリ」と蓮体自身が記していることから推量できる。

黄檗の法系からいえば、淨慧の師匠宝山最頂は宝洲道聡の弟子であって、宝洲道聡の師匠は鉄眼道光（一六三〇—一六八二）であった。道聡・最頂は鉄眼の門人として黄檗蔵の開版事業に参画しているから、あるいは淨慧もその販路開拓に尽力したものと推量される。宝山最頂（一六四五—一七二八）は近江の小松寺・延命寺を董し、駿州島田白岩寺を創した人で、法華経に精通して「法華の宝山」と称された学僧だった。また淨慧が依止して律を学んだ黄檗の日野正明寺五世寂門道律（一六五一—一七三〇）は菩薩戒を湖東東方山安養寺開山戒山慧堅（一六四九—一七〇四）から受けた。慧堅は近世律三僧坊のひとつ河内青龍山野中寺の慈忍慧猛（一六一〇—一六七三）の弟子で『律苑僧宝伝』十五卷（元禄二年八月刊）の撰述で名高いが、もとは鉄眼道光の膝下で出家し、曹洞の崎僧桃水雲溪（一六一二—一六八三）の勧めに従って宇治田原の東陽山巖松院にいた慈忍慧猛に参じたのである。祝髪の師である道光もまた慧猛から菩薩戒を受けた人であった。

淨慧が本願念仏の要義を聞いた洛東獅谷法然院の宣誓信阿忍激（一六四

五(一七二)は自律堅固な浄土僧であって、はやくから持戒念仏を唱え、寛文十一年二十七歳のとき近世律三僧坊の洛西植尾山西明寺、次いで和泉大鳥山神鳳寺に入衆持戒念仏を乞うたが許されず、延宝四年大乘菩薩戒を自誓受戒してようやく神鳳寺快円慧空の証明を受け、以来法然院に入ってここを持戒念仏の道場として風儀の衰え乱れた浄土宗の再興に尽力した。

撰州法泉寺珂然編『獅谷忍激上人行状記』一卷(享保十二年五月刊)には長崎の黄檗宗東明山興福寺五代悦峯章南(一六五五—一七三四)の序があり、附録に湖東安養寺二世湛堂慧淑(一六六九—一七二〇)の輓偈を載せているように、忍激は黄檗僧や野中寺派・神鳳寺派の律僧と交流し、とくに黄檗山四代独湛性瑩(一六二八—一七〇六)とは親交して宝永三年二月には独湛のもとらした『勸修作福念仏図説』二十一万八千枚を法然院から印施している。なお忍激には黄檗蔵と増上寺所蔵高麗版とを対校した大業がある、それが今日の大正新脩大蔵経として結実したことを思えば忍激の行業はきわめて重い。忍激には地藏信仰があり、『地藏尊孝養和讃』(『佛教和讃五百題』所載。大正五年四月山城屋藤井佐兵衛編刊)は忍激作と伝える。元禄三年四十六歳のとき、吾身と等身の地藏菩薩像を鑿造し、山壁を鑿ち岩屋を造って奉安した。その開眼供には慶贊導師として淨慧が招請されている。忍激はさらに長一寸の地藏像を一万体鑄造し衆庶に施与するなど地藏信仰には厚いものがあつたが、それは淨慧の感化によるものだといわれる。

忍激の晩年、その著『無尽灯会録』の刊行に助力し、別行念仏道場金毛院の建造に施財した人に培蓮居中川常宇(一七二四没)がいる。常宇は伊勢松阪の豪商中川家の浄安・浄故・浄宇(常宇)と続く三代目清三郎で、浄安の長女かねは三井高利の妻寿讚で三井家の基礎を築き、二人の五女みかは常宇に嫁いで寿嶺と称した。常宇は家業を忘れて仏道に入り、近江日野の木食澄禅(一六五五—一七二二)に帰依して妻・一女とともに出家し、松阪の菩提寺三縁山清光寺を拠点に十万人講を興行し、湛堂慧淑とともに励した鞍馬寺の融通念仏会再興に莫大な施財をするなどして家業を傾けた。淨慧はこの常宇と交流があつた。『儒釈雜記』卷四十七に、正徳六年(一七二六)八月、常宇の依頼で常宇所蔵の茶瓶について一文を草している。

茶瓶は黄檗山二世木菴性瑠がかつて明から将来愛持したものであつた。

なお内尾題に『佛神感應録』、題簽に『因縁佛神感應録』とある十五卷十五冊本が初版と見られる。この本は片仮名を平仮名に直し、句読点を削除し、目録を改編し、稽類沙門述『因縁佛神感應録』前集・後集二冊本として明治三十年七月、京都書林西村爲法館から編刊されている。(関口)

〔注〕

1 渡浩一氏「淨慧と近世地藏説話集―延命地藏菩薩経直談鈔」の背景(『説話文学研究』二十二号、昭和六十二年六月)・西田耕三氏「近世の僧と文学―妙は唯その人に存す」(平成二十二年二月、ベリかん社)・藤谷厚生氏「妙幢淨慧の戒律論について」(『印度學佛教學研究』五十八卷二号、平成二十二年三月)など。

2 藤谷厚生氏「黄檗僧妙幢淨慧とその戒律論書について」(『四天王寺大学紀要』五十号、平成二十二年九月)に翻刻文が載る。

3 西田耕三氏は京都柏野で没したとされる。また法然院の鶴阿宝洲(一七三七没)撰『貞伝上人東域念仏利益伝』二卷(元文二年(一七三七)四月刊)下巻に、淨慧の示寂を「享保乙巳二月廿二日」と伝える。

4 快円(一六三三—一七二二)は阿州徳島の人。高野山円通寺の真政円忍(一六〇九—一六七七)に師事し、真政を請じて神鳳寺中興開山とし二世を継いだ。黄檗の隠元隆琦・木菴性瑠らとも親交し重んじられた。菩薩戒弟子に忍激のほか鉄眼道光・覚彦浄嚴・智積院運敵・大徳寺天倫・禅楽寺大心・宝山寺湛海・大念仏寺大通などがある。

5 眞鍋廣濟氏『地藏尊の研究』(昭和十六年一月、富山房書店)。

6 小稿「鞍馬寺所蔵鞍馬寺融通念仏会再興関係資料」(滋賀県信楽院大松寺所蔵木食澄禅上人関係資料)〔学苑〕九〇一号、平成二十七年十一月)。

〔翻刻凡例〕

一、昭和女子大学図書館蔵『佛神感應録』前集八卷八冊本を底本とした。

一、可能なかぎり原文の表記を尊重し、明らかな誤刻もそのまま翻刻したが、「」(コト)等の合字は通行の表記に改め、摺墨の濃淡等による判読不能の文字は字数分の空格(□)を置いた。

一、半丁ごとに丁数を示し、各話末行と次話題との間に空行を置いた。

翻刻 佛神感應錄

〔三國因緣〕佛神感應錄 序目錄一 ①表表紙(題簽欠。以他本補) (白丁) ①表表紙見返

佛神感應錄序

唐ノ太宗曾臨朝ニ歎テ曰以テ銅爲レ鑑可レ正ニ衣冠一以テ古ヲ爲レ鑑可レ知レ興替一以テ人ヲ爲レ鑑可レ明ニ得失一朕常ニ保レ此ノ三鑑一内防ニ已カ過一今フ魏徴逝テ一鑑亡矣臆哉人主ノ言也方サニ今擴此ノ言則人人宜下ク以テ三寶及ヒ神儒ノ之教爲ニ之鑑ニ而可ナル矣蓋於テモ箇ノ三教中ニ亦各有ニ大鏡一焉有ニ中鏡及ヒ小鏡一焉或有徹底明淨ノ照膽ヲ燭レ幽ヲ所謂鑄

〔①序01オ〕
範非レシテ常ニ如ニ百鍊鏡ノ者上ノ或有ニ曄々タル光彩飛動射レトモ人ヲ而織翳猶未レ除カ似タルコト帶些ノ英氣一者上ノ可謂ニ盤龍鏡一者中ノ有ニ如レ缺如レレニシテ暈ルカカモ補欲磨セシト若クハ覓ニ得貞局先生ヲ如ニ張明府及ヒ劉郎古鏡ノ者上ノ若シ欲ニ對シ照シテ者ノハ須ニ應ニ擇用フ焉若シ夫汎々輩ヲモ各有ニ自家底ノ鏡一而擲置匣中ニ奈ニ其ノ如レ漆ノ何既ニ是自救不了寧論セシヤ照レスコトヲ人ヲ耶是所ニ以テ不可藉ニ得他ノ明鏡一以テ不上レハアル辨ニ自妍媸ニ也若シ有二一

金煙薰レシ之ヲ玉水洗テ之ヲ而云三何レレノ處惹ニ塵埃之ヲ光景ヲ則可レ謂フ眞箇ノ神寶八咫鏡一ト者歟抑亦無相ノ一大圓鏡歟然レハ則太宗所言之三鑑モ亦悉ク在リ這裏ニ冀クハ其ノ學レ之ヲ者ノ反復沈潛シテ宜ク玩味一ス焉余チナミニロウ之影像一以テ藏ニ之ヲ糞窟底一曉

峯

寶永屠維赤奮若歲應鐘中澣

湖東學摩訶衍沙門

弄幻子稽顙竊題

幢妙 慧淨

所引用之經論及和漢書目

○第一卷

- 莊子 尚書
- 智度論 楞嚴經
- 仁王經 起世經
- 阿含經 神代卷
- 虎關禪師評論 史記封禪書註
- 文選西京賦 唐王維華岳詩
- 劉禹錫華山歌 大明一統志
- 廬山緣起 因緣集
- 神皇正統記 大華仙掌辨
- 張橫渠及程伊川鬼神說 劉屏山鬼神說

程明道說	和漢年表錄	晉書天文志	西域記
廣輿記	文德實錄	博物志	異聞錄
日本書紀	山城風土記	唐逸史	集異記
元亨釋書	延喜式神名帳	唐書李賀傳	才子傳
源平盛衰記	二十二社式註	杜牧記	列仙傳
蘓子瞻神說	神社考	宗鏡錄	寶山記
峯相記	諸社一覽	天地麗氣記	神代纂疏
陽復記	神社啓蒙	神紀	護法論
一宮記	神系圖傳	大公陰謀	風俗通
義楚六帖	列子	幽怪錄	長阿含
草木子	袁了凡綱鑑	蒙求	剪燈新話
通鑑綱目	通紀	鳴道集說	鬼神辨話
青瑣高議	事文類聚前集	金光明經疏	
景德傳燈	常庵禪師畫富士山記	○第二卷 <small>雖不煩復引之而前卷已出書目者、</small>	
林羅山富士山記	富士緣起	瑜伽論	雜集論
土師玄同土峯錄	都良香富士記	俱舍論	法華文句
赤人富士長歌	大内記錄所記	證眞私記	三界義
孟子	淮南子	佛本行經	十二遊經
三五曆紀	周易	菩薩本行經	鷲嶺聖賢錄
左傳	朝鮮史記	瑞應經	浴佛經
前漢書	筆談	周書異記	法本内傳
理學類編	物理論	感通傳	法華玄贊
孟康星說	說文	大部補註	寶藏經
抱朴子	程氏遺書	教時諍	公羊傳

┌①書目04ウ

┌①書目03ウ

┌①書目04ウ

┌①書目05ウ

┌①書目05ウ

孔承先孔子誌

家語

神道大意

東家祕傳

史記索隱

宗景濂孔子生卒辨

三聖圓融觀

禪門寶訓

四書故事

顏氏家訓

神國決疑論

蜀都賦

論語

○第四卷

古事記

元元集

孟子

老子

神皇實錄

帝王略記

心氣理論

同權近註

地理神鑑

述異記

楚辭王逸註

大和論語

錄異記

鎮座本紀

六根清淨大秘

勝天王般若經

龜兆傳

舊事本紀

伊勢日記

本朝儒宗傳

天口事書

禁祕鈔

悲華經

寶基本紀

親經卿新古今叙

龍尚舍所考日本異名

中臣秘

神代口訣

和爾雅所考日本諸名

括地志

神道名目類聚鈔

九峯集

東國通鑑

歐陽子日本刀歌說

劉氏鴻書

○第三卷

度會延佳記

簾中鈔

活所遺藁

中華若木集

大神宮先規錄

大常國史

佛法金湯編

輔教編

大和姬世紀

丹後風土記

宋孝宗皇帝原道辨

三教平心論

卜部兼俱記

神書鈔

空谷禪師三教說

四朝高僧傳

神名祕書

大神宮神異記

本朝通紀

續神皇正統記

周禮

○第五卷

善見律

大日經疏

前太平記

奥羽軍記

神道名法要集

飛鳥筆記

長明發心集

黑谷傳

中庸

同圖解

續往生傳

後拾遺往生傳

毛詩

二程全書

觀音冥應集

保元物語

ㄣ①書目06ㄣ

ㄣ①書目06ㄣ

ㄣ①書目07ㄣ

ㄣ①書目07ㄣ

隨求陀羅尼經

遊心安樂道

淨土善人咏

扶桑往生寄歸傳

芝園集

不思議疏

隱元和尚廣錄

皇明百孝傳

地藏尊應驗新記

心經法藏疏

山堂清話

宗傳竊議

同弘法大師祕鍵跋

說畧

博山老人剩錄

當曼西方聖境圖說

○第十一卷

金剛經

觀經

輓偈稱讚淨土記

當曼緣起

太平廣記

淨土晨鐘

當曼白記

大佛殿讚頌集

金剛經靈驗傳

法華經

三寶感通錄

同曼陀羅抄

甚深回向經

法華弘贊傳

瑞應刪傳

和字古今通例全書

同靈驗傳

同利益物語

萬家總覽

智證大師別傳

同和語記

妙立歌集

杜子美飲中八仙歌

古今文致

法華譯和鈔

同現應錄

本朝列女傳

續日本紀

同籤文

善隣國寶記

瀛奎律髓

俗說辨

華嚴經

文殊指南圖讚

○第十三

同要解

續博物志

拾芥鈔

業報差別經

同人詩話

解夢靈書

諸乘法數

忠經

東人詩話

西山記

文義綱目

金光明經疏

僧史畧

華嚴感應傳

同持驗記

太子傳

同聖譽鈔

金光明最勝王經

兼名苑

同俊嚴鈔

同撰集鈔

公事根源

歸元直指

同通要

東國僧寶傳

○第十二

韓府茗談

獨湛禪師行狀

融通念佛緣起

靈憲

阿彌陀經

繼燈錄

唐書嚴善思傳

樓炭經

同行由記

繼燈錄

管窺輯要

諸天傳

「①書目11ウ

「①書目12ウ

「①書目12オ

弘法大師辨天根本式

橫川辨才天記

大微眞君功過格

太上感應篇

法界次第

三藏法數

李昌齡感應編

同沈補石箋註

神書舊記

潮音禪辨天經註

雲棲自知錄

小補韻會

詞林採葉

如意寶珠陀羅尼經

山房雜錄

善住意天子經

和漢合運

本朝年代記

大學

蘊婆呼童子經

改曆雜事

竹生嶋縁起

①書目13才

法苑珠林

增壹阿含

江談鈔

本朝神仙傳

大寶積經

興正文集

古事談

梅峯錄

大黑天神經

南海寄歸傳

西行撰集抄

曉風集

七福神傳

佛祖通載

瓊花集說

日本靈應紀

新譯仁王經

慧琳音義

六家鈔註

豫章記

類聚本源

兼俱神代抄

丹後地志

囉闍耶寶部陀羅尼經

舊事大成經

祖庭事苑

須弥藏經

吉祥天女十二名号經

事物紀原

應邵華表記

無垢大乘經

觀音經

事文類聚續集

日吉鎮座記

諸尊眞言句義鈔

福徳圓滿陀羅尼經

①書目13ウ

羅山文集

風俗記

順和名鈔

高野通念集

令義解

神祇祕書

○第十四

大慧年譜

御鎮座次第記

豐葦原卜定記

鎌倉志

小爾雅

神社便覽

花史

物類相感志

湘山録

地錦鈔

百因縁集

三綱行實

陶淵明全集

扶桑禪林僧寶傳

風雅集

定命論

古文前集

○第十五

四明六識說

人物尚論編

近思録

粉川寺縁起

大日經開題

帝王世紀

陰騭録

天台傳佛心印記

大日經開題

東坡三槐堂記

陰騭録

金光明玄義

大日經開題

①書目14才

①書目14ウ

①書目15才

不空羅索經

賢首五教儀

道元和尚紀年錄

法華感通傳

己求書

頂法寺縁起

三籟集

卜部兼邦說

霧海南針

救面然經

雜談集

毗羅三昧經

燄口新儀

竹窓隨筆

傳燈錄

西漢書

信師古之記

普賢行願品諸鈔

彌陀懺

地藏懺

三千佛名經

萬佛名經

全十五卷所引

總合五百五部

覺諺律師法華新註

南越志

冥祥記

善餘堂筆乘

觀音持驗記

東坡文集

冰川詩式

華夷通商考

扶桑禪林僧法傳

瑜伽集要

永明道跡

水陸大齋靈跡記

救燄口陀羅尼經

水懺法

碧巖

大和怪異記

廣韻

法華懺

觀音懺

八十八佛名經

五千佛名經

佛神感應錄卷第一目錄

一 本朝神祇最敬タテマツルベキ事

二 世界建立ニ摠別アル事 附華山巨靈神ノ證ヲ引事

三 華山神跡ノ辨 附和漢神變不思議ノ事

四 星墜テ石トナル辨 附雷斧雷楔ノ事

五 女媧五色ノ石ヲ鍊テ天ヲ補ノ辨 附神力疑ベカラザル事

(白丁) ①目錄01ウ

佛神感應錄卷第一

一 本朝神祇最敬タテマツルベキ事

所謂境ニ入テハ禁ヲ問。其國ニ在テハ。大夫ダモソシラズトイヘリ。是レ蓋分ヲ知。禮ヲ守ノ一端ナリ。ステニソノ非ナリト思ダモ。ソシラズ。況世コゾツテ。善ト称ズルヲヤ。アニ一己ノアタアリ恨アルガユヘニ。コレヲ惡ジテ。ミダリニ毀ヲ加ヘンヤ。大夫ナヲシカリ。何ニ況國ノ主ヲヤ。恭惟ニ。夫日本ハ。神國ナリ。ステニソノ國ニ生。アニソノ掟ニソムイテコレヲ敬ザルベケンヤ。コトニ況淳然タル正神ニシテ。邪神淫祠ノタグヒニ非ヲヤ。コレコノ本體。瑩然タル明鏡ノ瑕ナキガゴトシ。素ソシルベキコト。ナシト知トイヘドモ。我

①書目16ウ

①書目16オ

①書目15ウ

利物勸善懲惡ニアラズト云フコトナシ。我輩ステニコノ國ニ生テ。顯
ニ冥ニ神恩ヲカウフレルコト。少カラズアニ一念モ。輕慢ノ心ヲ起ベケ
ンヤ。世ニ凶惡愚頑ノ輩アツテ。神社ヲ没倒シ。神田ヲ侵奪。神木
ヲ伐。神地ヲ穢ノ類ハ。最論ズルニタラズ。其身ヒトリ。神罰ヲ被ノ
ミニアラズ。餘ノ殃。子孫ニ覃コト。旧記口碑ノツタフル。 ①02ウ
トコロ。其證イチジルシ。コレ敬ヘキヲモ敬ズ。恐ベキヲモソソレズ
シテ。却蔑如ニスルガ故也。神タトヒ罰スルコトヲ欲セズト云フトモ。
ソノ自取ノ禍。ムシロ免ベケンヤ。尚書ニイハユル。天ノナセル孽
ハ。ナヲ違ツベシ。自ナセル禍ハ。違ベカラズト。カノ名ナシ雉ヲ殺せ
ル。天稚彦命ノ。天ヨリ降シ玉ヘル。天真鹿兒ノ矢ニ中。死シ玉フガ
ゴトキ。是儒教神道。齊因果當然ノ理ヲ示ユヘンナリ。吾神素佛
法ニ歸シ玉フコト。歴史ノノスルトコロ。昭然トシテ。更ニウタガフベキ
トコロナシ。俯察仰觀ズルニ。好我國ノ宗祖トシテ。正大公直ニ。
善ニ與人ヲ利シテ。佛法ヲ擁護シ玉ヘバ。最信敬スベキ理ナリ。今
コ、ニ畧シテ。先世界總別ノ建立ヲ明。次。 ①03オ
ニ神佛ノ事縁ヲ叙ヅ。因ニ問答ヲ設テ。疑ヲ通ズト云フ茲ニ欽。古ヲ
稽。ニ。三千大千世界ハ。一佛ノ國土ニシテ。同時ニ起。同時ニ滅シテ。
更ニ前後ナキコト。智度論第十七等ニ弁ズルガゴトシ。然バズナハチ。其中
ニ孕タル。月支ト云。震旦ト云。四夷八蠻。乃至三千三百ノ大國。 ①04ウ
部劬ニ約ス。餘三五百ノ中國。十萬ノ小國ヲヨソ十六ノ。大國ト云ハ。天竺ノ中ノ大國ヲ云
劬ナゾラヘシルベシ。アル中ニヲキテ。日本ハ。神造ノ國ナレバ。其恩ヲ思。敬。ベシ。

三 世界建立ニ總別アル事 附 華山巨靈神ノ 謔ヲ引事
或問ハク。虎關會。起世經。阿含等ニ依。云ルコトアリ。成劫ノ始

ニ大雨シキリニ降湛テ。初禪天。二禪天ヲ涵。ヤウヤクノボリテ。三
禪天ニ至時ニ。隨風風吹ヒルガヘシテ。漚ヲ起ニ。ソノ漚稍コリカタマ
リテ。諸天ノ宮殿。乃至須彌山大地トナリ。ソノ殘水ハ。大海トナル
トイヘリ。シカルトキハ。須彌ノ四洲ノ地。一時ニ俱ニ成ジテ。後先別ニ
造ト云フニハアラズ。但ソノ増劫ニハ。海ノ水減ジテ。東西南北ノ四洲。
塗ヲ通ジ。又減劫ノ時ニハ海ノ水滿溢テ。嶋ノゴトクニヘダ、リ栖。今
ヤ減劫ノ時ナレバ日本モ。嶋トナリニタリ。シカレトモソノ海ノ下ノ地ハ
天竺震旦等ノ諸國ト。同一ニ連ツバケリ。アニ彼鋒ノ滴ノ露。始
地トナランヤ。是智惠セバキモノ、。巫ニ託テ。矯言ナラント云々。
シカレトモ。コノ鋒ノ滴ノ國トナルト云フコトハ。尋常末々ノ。 ①04オ
雜說ニイデタルニアラズ。巫覡ノイツハリ。飾言ニモ非。本神代ノ卷
ニイデタリ。畧シテ引ニ云。伊弉諾尊伊弉冊尊。天ノ浮橋ノ上ニタチ
玉ヒ。共ニ計。曰。底下。アニ國ナカランヤトノ玉ヒテ。廻天ノ瓊
杵ヲモツテ。指下テ是ヲ探玉ヒシカバ。コ、ニ滄溟ヲ獲玉ヒキ。ソノ
矛鋒ノ滴瀝トコロノ潮。凝テ一ノ嶋トナレリ。コレヲ名テ碓馭盧嶋。疏說ニ
自擬ノト名ツクト云々。イカンカ通會セン。愚謂。凡摠別ヲ建ニ。畧
シテ二種アリ。一ツニハ摠ヲハナレテ。外ニ別ヲタテ。二ツニハ摠ノ上ニ。
別ヲ立ルナリ。虎關ノ破スルトコロハ。摠ノ外ニ別ヲタテ、。シカモ云フ。
日本ハ須彌四洲等ノ一時ニ。總ジテ成ニハアヅカラズ。神力ヲ。 ①04ウ
モツテ。別ニ孤成ズト。モシシカラバ。雷佛說ニ悖ノミアラズ。又神
代ノ卷ノ文ニモタガフ。コノユヘニ虎關神代ノ卷ト引ズシテ。或曰ト
イヒ。伊弉諾伊弉冊尊ト稱セズシテ。只神宮ト稱ス。ソノコトヲ朦ニシ
テ。アヘテ神代ノ卷ヲ見ザルモノ、ゴトクニス。コ、ヲ以知ヌ。神代ノ

①03ウ
①03オ
①04ウ
①04オ

卷ニ言トコロノ。摠ガ上ノ別ヲ破スルニハアラズ。只世ノ佛説ヲ信ゼズシテ。神力ヲモツテ。摠ヲハナレテヒトリ別シテ。日本ノ天地ヲ建立スト。云誤ヲ破スルナリト。故ニ云フ。アニカノ鋒ノ滴ノ露。始テ地トナランヤト。始テノ字。心ヲ付テミルトキハ。ソノ分自明ナリ。扱又神代ノ卷ニ。滄溟ヲ獲ト云フハ。摠地ハステニ成ジヌルコトヲ明ナリ。經ニイハズヤ。大地ヲ成ジ

①05オ

畢。ソノ殘水大海トナルト。大地イマタ成ゼズンバ。滄溟ナニ、據カ保得。コ、ヲモツテシンス。摠地ステニ成ズト云コトヲ。又天ノ浮橋ノ上ニ立ト云ヲモツテ。天モ亦ステニ成ズルコトヲ曉ナリ。若マタ人アツテ言カ。是シカシナガラ。天地ステニ成ゼル後トモ定カタシ。イカントナレバ。イハユル成劫ノ初。大雨湛三禪天ニイタルト。シカレバステハチ。滄溟ハ。三禪天ヨリ以下ヲ指。天ノ浮橋ト云フハ。第四禪天上ヲ云フニアラズヤト。コノ義シカラズ。イカントナレバ。夫四禪天ト云フハ。捨念清淨ノ地ナリ。シカルニ伊弉諾尊伊弉册尊共計ト云々。神若カクノゴトキノ分別ヲ起シ玉ハ。ナンゾ捨念清淨トイハン。四禪ニアラザルコト。知ベシ又色界ハ。初禪

①05ウ

ステニ姪欲ヲハナル。イカニ況第四禪ヲヤ。シカラバステナハチ陰陽ノ兩神。ナンゾ第四禪ニイタリ玉ハンヤ。イハユル天ノ浮橋トハ。欲界天ヲ指コト明シ。神書ニ欲界色界等ヲタツルニハアラザレト。コトニ況神書ヲ閱スルニ。陰陽ノ二神ヨリ前。國常立ノ尊ノ時。天地ステニ開闢スルコトヲ明スルヤ。本文末ニ。イダス。決シテ知ヌ。兩神ノ日本ヲ建立シ玉フトイツハ。天地世界總成ノ後。別願別縁ニ乗ジテ。神力ヲ運。次第ニコレヲ生ジ成玉フト云コトヲ。ステニカクノゴトクニ見得スルトキハ。佛説ニモ悖ズ。神德ヲモ信用ストイツ、ベシ。マサニシルベシ。虎關總ガ上ノ別ヲ破セザルハ。神力ヲ重ズレバナリ。又神代ノ卷ニ。摠ヲ離テ。

別ヲ建ニアラザルハ。自佛説ニ合スルナリト。コノトコロ。思惟スベシ。若私夫總ガ上ニ別シニ黨スルノ心アラバソノラクハ。兩教ノ本意ニ合ベカラザラン。餘ハ例知スベシ。テ成ト云フ。異朝ノ例ヲ引テ。

①06オ

コレヲ明サバ。所謂華山ト。首陽山トハ。本一山ニテアリシヲ。巨靈ト云フ神。一夜ニ兩方ヘ分開テ。ソノ間ヲ黃河ノ流ヲ通ヌ。後ノ世マデモソノ手足ノ跡ヲ遺テ。名テ仙掌ト云フト。具ニ史記封禪書ノ註等ニイダセリ。又文選張平子ガ西京ノ賦ニ巨靈高掌。其跡猶存ノ辭アリ。又唐王維ガ華岳ノ詩。及劉禹錫ガ華山ノ歌ノ中ニモ。コノ巨靈ノコトヲノセタリ。大明一統志ニモコノコトヲ述テ。周雲叟ガ詩ヲノスルニ云ク。巨靈一夜劈山開。コレラノ類ハ。ミナコレ博識多才ノ文人碩儒ナリ。シカルニ神ノ妙用化迹ヲウタガハズシテ。文ニ賦シ。詩ニ著。イカニ況ヤ。陰陽ノ二神相ハカツテ。淡路ノ洲。乃至

①06ウ

秋津洲等ノ大八洲ヲ生マスト云コトヲヤ。復奚ウタガハン。今ニヲキテ。比叡山ノ波止土濃淡路國ノ千光寺山。大和ノ國ノ靈山ナドニ。古ノ靈蹟ヲ遺テ。縁起ノ趣。掲焉タリ。按ズルニ大宮ノ波止土濃ノコトハ。叡山ノ縁起ニイツ。千光寺山ノコト。因縁集ニモ出セリ。神皇正統記ニ磯敷廬嶋ト云。コノ名ニツイテ。秘説アリ。神代梵語ニ通カ。ソノ所明ニ知人ナシ。大日本ノ灵山ナリトイヘリ口傳アリト

華山神跡ノ辨 附和漢神變不思議ノ事

或問ハク。華山ニ神仙ノ跡アリト云コト。王涯ト云シ人。太華仙掌辨ト云フヲ作。其信用シガタキコトヲ演タリ。載事文類聚前集第十三ニアリ。子イマダコレヲミズヤ。ナンゾ。コレヲ引テ。證トスルヤ。對云。余嘗王涯ガ仙掌ノ辨ヲ閱スルニ。ソノ究竟ズル

①07オ

トコロハ。神ナシト云フニハアラズ。ソノ手足ノアトノ遺ト云フコトヲ。信ゼズ。又神怪ヲ語ルコトヲ嫌ナリ。畧シテ引ニ云ク。夫所謂神者。非人ニ也。其動無聲。其行無跡。若形而無象。

ゴトクナレモキアルガシシモ
若レ。氣。而無色。拔山ヲ割澤。而不見其作。鼓風ヲ奔
水ニ。而不見其力。視レトモ不レ可。察。名不レ能。及。故ニ推而謂
之。神ト。鳥有ニ神之作。力。而有ニ人跡一乎。乃使レ不語ヲ怪神
ニ之神ト。鳥有ニ神之作。力。而有ニ人跡一乎。乃使レ不語ヲ怪神
之旨。何ノ所ニ。二。述明。云。蓋コレ神ノ妙徳。氣勢幽微ニシテ。測ベ
カラザルトコロヲ形アカスト云ドモシカレトモ。張横渠ノイハユル。鬼
神ハ二氣ノ之良能也。又程伊川ノイハク。鬼神ハ者。造化ノ之跡ト。此
等ノ言ヲ。潤色張皇。頗理ヲ主シテ説ニスギズ。モシソレ動ドモ。
聲ナク。其ノ行トキニ。跡ナク。形アルガコトクナレ

①07ウ

ドモ。シカモ象ナク。氣アルガゴトクナレトモ。シカモ氣ナシト云ガゴト
キハ。其至徳ノ深奥ナルコトヲ。讚ズルニハ可ナルベシトイヘトモ。コレ
頗理體ノミヲ云テ。其妙用身自在ナルヲイハズ。我イハユル神トイツ
バ。聲ナケレトモ。シカモヨク聲ヲアラハシ。跡ナケレトモ。シカモヨク
跡ヲシメシ。形ナキガゴトクナレトモ。シカモヨクカタチヲ現ジ。只氣ア
ルノミニアラズ。シカモマタ色ヲ。アラハス。體用一致。隱顯自在ナルヲ。
神トナヅク。劉屏山ガイハユル。鬼神ハ。見ズ聞ズトイヘトモ。シカモ物
ヲモツテ。體トシテ。シカモ影ノゴトクニコレニ附イテ。遺ベカラス。故
ニ洋洋乎トシテ。ソノ上ト。左右トニ。在ガ如シトイヘリ。劉屏山。ガ鳴道集説
ノ鬼神ハ。物ニ體シテ遺ベカラスト云。體ノ字ヲ。生ノ字ノ心ニ。釋シテ。後ノ世
アヤマリヲウクルモノアリト。論弁。ソモク。ウガシシ
レド。マギラハンケレバ。抑我神ナリト云ハ。宋儒ノイハユル。二氣ノ
良能。及造化ノ跡ナリト云理ノミニアラズ。又コノ理ヲ離ニモアラズ。
故ニコレヲ神人ト称ズ。神代ノ卷ニ。國常立シカレ。莊子ガ。神人ト云フニハ。
少異ナリ。是ハ專神ニシテ。人ハ假ノ称故ニ。按ズルニ。莊子ニ。天人至人
スシト。是ハ。神人ト号ス。然トモ。神人ヲ分張横渠コレヲ破セ
リ。夫天神地祇ノゴトキハ。本人ニアラズ。シカレトモ。夢ニ幻ニ。暫人ノ形ヲ化現シタマフニ約シ。
及後世人靈ヲ祀テ。神ト称ズルガゴトキハ。カリト呼神人トモ称スベキ歟。諸天本人ニアラザレトモ。
ノカタチノ似タルコトアルユヘニ天人ト云ガゴトシ。シカレバズナハチ。莊。又是活物也。程明道
子ガ神人ノ言。モトコレヲ云ニハアラザレトモ。時ニマタ。カリ用ベキ歟。日。是人

①08オ

活物也。又安得爲橋木死灰。除是死也ト云。鬼神ノコトヲ釈スルニ。陰陽ノ良能。及造
化ノ跡トイヒ。又ハ声ナク。象モナシナド。多ハ理體バカリヲイヘリ。吾國ノ神ハ。蓋コノ理ニ法
妙用自在ニ。世ヲ化。ユヘニ活潑變化。隱顯自在ナリ。コノユヘニ。或ハ示現
シ。物ヲ救ヒタマフ。托宣シテ。歌ヲ詠ジ。詩ヲ誦ジ玉フ。コレアニ。聲ナシトイ
ハンヤ。又ソレ瓊々杵尊ノ。天ノ八重雲ヲ排分テ。天津空ヨリ降。大已
貴神ノ。天ノ羽車ニ駕シテ。虚空ヲ遊行シタマフガ。ゴトキハ。コレ
ナヲソノ跡ナシトモ云ベキカ。素盞雄尊ノ根國ニイタリ。經津主。武甕
槌ノ神ノ。蘆原國ニ降玉ヒテヨリ後。陸行地住ノ神。コレ多。後世。タ
トヒマノアタリ。其跡ヲ見ズト云フトモ。アニ其跡ナシト云ベケンヤ。山
跡ノ称アルガゴトキ。想見ベシ。コレ又人跡ノミニアラザルコトヲ。但
ソノ足掌ノ跡ヲ。數千萬載後マテ歷々トシテノコシ玉フト云フハ。
悉ハ信ジガタキニ似タリ。ソレ山ハ崩谷トナリ。淵ハカハリテ。瀨
トナル。須臾ノアヒダニモ。轉變スル世界ナルニ。幾萬代ヲ經テ。昔

①09オ

ノ跡ノカハラヌハ。固ニ希有ナルコトゾカシ。又或ハ事ヲ好モノ。擬
作モアルベク。或ハ似タルコトヲ。アヤマリ傳フモアルベシ。シカレバ
スナハチ。王涯ガ華山巨靈ノ手足ノ跡ヲ疑モ。由ナキニアラズ。シカリ
トイヘドモカ、ルコトヲ。悉ウタガヒ。モテユカバ。造化鬼神ノ妙。凡
慮ノ分際ニ墮テ。却通ゼザルコトヲホク。一向ニ上古ヲウタガヒ。邪解
ヲ逞スルコトアリナン。タトヘバ史記ニノス。伏羲ノ時。共工氏トイ
ヘル人。祝融トタ、カフテ勝ズ。怒頭ヲモツテ。不周山ニフレシカバ。
山崩ヌ。天柱折。地維缺ト云々。按ズルニ。共工氏ハ。ソノ時ノ諸侯ニシテ。神ト云
勢ノアヤシク猛コト。言語ヲ絶ス。或人ノ云ク。コレハ太古ノ勢ノツヨキコトヲ。文用ニ書タル
ナラン。實ニコノコトアルニアラジト。サイヒモテユカバ。上古ヲシギノコトハ。ミナ虚妄ナランヤ
コレ等ノ類。アニ常ノ理ヲモツテ。
通ズベケンヤ。按ズルニ。伏羲ノ時ハ。我朝。鵜茅膏不合尊。是乃地
神五代

①09ウ

ノ季ノ世ニアタル。共工氏。女媧氏ハ。共ニ是神ト称スルニモアラズ。コトニ本朝伊弉諾伊弉册ノ尊ヨリハ。殆二百三十一萬。六千八百八十餘年ノ後也。コレ和漢年表録ニナヲコノ不思議アリ。イカニ況。本朝神代ノ昔ヲヤ。又五帝ノ中。帝嚳ノ妃ニ。姜嫄ト云シアリ。野ニイデ。巨人ノ跡ヲ見テ。欣踐。感ジテ。ツキニ后稷ヲ生ズ。又梧州府ノ飛雲山ノ石上ニ。巨人ノ跡多ト。コレナン人ゾヤ。蓋思ニ。神人ナルベシ。是ヲモツテミルトキハ。神人マツタク。跡ナシト云ベカラズ。コ、ニ知。華山巨靈ノ跡。總虛妄ナリトモ。決シガタシト。又色容ノ

①10ノ15オ

コト事ヲイハハ。所謂本朝ノ神ニ。三身ヲ建ノ習アリ。一ツニハ理ノ身。二ツニハ氣身。三ツニハ種身。是ナリ。若ク陰陽造化ノ理ノミヲ云ハ。纒ニ理ノ身ヲ説ニチカシ。又和魂。幸魂。奇魂。荒魂。術魂ノ離合單復ノ習アリ。コ、ニ具ニア。コノユヘニ。身ヲ種々ニ變化シテ。隱顯自在ナリ。或ハ柔和端嚴ノ貌ヲアラハシ。又ハアラフル威凜ノ相ヲ現ズ。翅是有情ノ色身ヲ顯ノミニ非。又非情ヲ體トシテ。シカモヨク神魂ヲ寓ズ。所謂日ノ前ノ社。日矛ヲ體トシ。熱田ノ宮ノ寶劔ヲ主トスルカゴトキハ。更ナリ少彦名命ノ彩ゴトキノ小石ニ化シ。文武實録ニ比喩語曾ノ神ノ白石ト成居玉フガゴトキ。亦甚奇也日本書紀

①10ノ15ウ

合ノ常談ナリ。凡諸神ノ自本地ヲ云。或ハ佛法ニタツサハリ玉コト。諸書ニ記スルコトコ珍カラズ。タルガゴトキ。ナンゾ色質ナシト

セシ。又ソレ魂ヲ分玉フニ至テハ。天照太神ノ荒魂。廣田ノ明神トナリ。日本紀。及二十ヲホアナムノカ。サキミタマ。二社註式ニイヅ。大巴貴神ノ幸魂。

①16オ

奇魂。分三諸山ニ住シ。日本住吉ノ荒魂ハ。築紫ノ小戸ニ住シ。和魂ハ。神功皇后ノ玉體ニ託テ。ツキニ住吉ニ鎮座シ玉フガゴトキ。其餘ノ垂跡縁起ノ神社ハ。蓋是分魂ノ宿玉フトコロナリ。蘇子瞻ガ所謂。神ノ天下ニ在ハ。水ノ地中ニ在ガゴトシ。往トシテシカモ在ズト云コトナシト云々。固ニ宜カナ。然ニ王涯ヒトヘニ信ぜズシテ云。

①16ウ

鳥 神力ヲ作コトアツテ。シカモ人ノ跡アランヤト。思ニコレ併

紛 キコトアルガユヘナラン。サレバ本朝ニ。神ノ跡ヲ遺テ。神力アルコトヲシラシムルガゴトキハ。先ハ戸隱社ノ天盤ノ信州ニアリ。手力雄ト。日本紀ニアリ。神ノ生石子大明神ノ。石ノ寶殿。幡州姫路ト鹿兒トノ間ニアリ。又ハ靜ノ社考ニモ亦コレヲノス。窟トナツク。峯相記ニ

①16ウ

因縁ヲイダセリ。坂内氏ガ諸社一覽ノゴトキ是ナリ。其不思議ヲ顯ニ至ハ。内外ニ具ニ人工ノ所爲ニ非コトヲ云。凡天下ニ兵乱アルベキ時ハ。豫凶。吉備津ノ宮ノ御柱。ヲ示コト。陽復記ニツラネアゲタリ。吉備津ノ宮ノ釜殿。備中ニアリヤクウノシ。天下ニ兵乱アルベキ時ハ。豫凶。吉備津ノ宮ノ釜殿。備中ニアリ津ノ宮ハ。吉備武彦命ナリ。本殿ノ西ノ方ニ釜アリ。人祈願アレバ。マフデ、コレヲ念ズ。乃至離ルニ。此釜自鳴。時ニ神官ソノ声及声ノ有無ニツイテ。吉凶ヲトス。神社啓蒙等ニモ出。乃至離火ノ明神ノ。暗夜ニ舟人ノ祈ニ應ジテ。忽ニ火ヲ燃。隱岐ノ國海部郡ノ嶋前ニ在。諸神書ニイヅ。コトワカサヤン。クワチドウ。ヲコナヒ。遙ニ闕伽ノ水ヲヨクリ。二因縁集ニクハシ若狹遠敷ノ明神ノ二月堂ノ行ニ。遙ニ闕伽ノ水ヲヨクリ。日本書紀ニイヅ。神功皇后ノ時。玉姬ナリ。遠敷ト云。ハ。郡ノ名ナリ無音河及神願ノ因縁。ツブサニ釋書ニミエタリ。諏訪大明神ノ七不思議。因縁集ニ迹驚ノ岡ノ。大磐ノタグヒ。日本書紀ニイヅ。神功皇后ノ時。ゲテシルスベカラズ。又神系圖傳ヲ。按ズルニ上古日ノ神。天ノ石窟ニ居トキニ。諸神神樂ヲ奏ス。其トコロ

①17オ

降。一ツノ山トナル。雷神擊開。二トス。高野山如意ガ嶽。是也トイヘリ。前ニイダストコロノ。華山ト。首陽山トヲ。分開ノ例ナリ。ナ

ヲコレヲウタガハム。コノ類異朝ニコレ多。且數箇處ヲアグルニ云。

福州飛來山。大明一統志ニイヅ。相傳越王ノ時。會稽ヨリ飛來ト。杭州府ノ飛來峯。廣輿記ニ云。晉ノ時西天

日。コレハコレ。天竺國靈鷲山。羅山浮山ハ。本二山シカルニ合シテ。一山トナル

六帖ニ云。羅浮ノ二山合鉢トハ。浮山ハ本蓬萊ノ一峯ナリ。ムカシ洪。大行王屋ノ二山分テ。

水ノ時。海ニウカシテ。ナガレ來テ。羅山ニ合ス。ユヘニ羅浮山ト名ヅク。太行王屋ノ二山分テ。

東南二峙。列子ニミエタリ。是愚公ガ願ニ因。又草木子ニ記スラク。陝西省ノ某ノ

縣至正十五年ノアイダ。一夜大ニ風雨アリ。一ノ大山。西ニ飛コト。十

五里。山ノモトノアトハ。陷。深潭トナルト。袁了凡ガ綱鑑ニ。①17ウ

元ノ延祐二年五月。泰州成紀縣ノ山移。ソノ夜疾風フキ雷電頻ニシテ。

北山南ニ移テ西河川ニイタリ。次ノ日再移ト云リ。通鑑ニ云ク周ノ

武則天垂拱二年九月ニ。山新豐ニ湧イヅルコトアリ。又通紀ニ明ノ神宗

萬曆廿七年。山ノ南ノ平地ニ五山湧イヅ。高廿丈餘ナリト。アニタ

山ノミナランヤ。元ノ順宗元統二年八月ニ。鷄鳴山陷。方百里ノ池トナリ。

通青瑣高議ニハ。巢縣。陷。湖トナルコトヲ記。事文類聚前集十七。ガゴトキ。

其餘天地ノ神怪。陵谷ノ變遷。殫記ニイトマアラズ。アニ翅一時ノ

變ニシテ。自然ノ事ナリト云フベケンヤ。蓋必然シムルモノアルコト。

多カラン。昔嵩嶽ノ神。人ト化シテ。眷屬ヲ引ツレ來。元珪。①18オ

禪師ト問答シ。ツキニ五戒ヲ受ヌ。因禪師ノ命ニ應ジテ。北巖無數ノ林

樹ヲ。一夜ニ東嶺ニ移タリソノ夜雷電。ハナハダシク。風雲荒晦ナリ。

夜明テミレバ。諸樹森然シテ。移植タリト。云々。具ニ傳燈錄第四ニミ

エタリ。嗟乎神ノ云爲。測ベカラズ。或ハ。冥運。又ハ顯ニ成。

併神恣ニコレヲナスニアラズ。多ハコレ。衆生ノ業感ニ因ナリ。

本朝ノ富士山及近江ノ湖。涌出ノゴトキ。已ニ代人ニ按ズルニ。富士山一夜ニ涌

ノ正史ニハミエズ。只宋々ノ諸書ニミエタリ。建仁寺常庵禪師ノ畫富士ノ記トハ。日本記等

並ニ人皇七代孝天即位五年ニ琵琶湖開テ。富士山イツトス。又和漢年表録ニハ。富士出生ハ孝安帝即

位九十二年。庚申六月トシ。近江ノ琵琶湖ノタハタルハ。孝天帝ノ即位五年乙亥トス。ソノ間。相去

ト十六年ナリ。シカレトモ年表録ニハ。コノ外相違ノコトモアレバ。證トスルニタラズ。又富士縁起ニハ。

コノ山ハ月氏七嶋ノ第三ナリ。シカルニ。天竺烈擲三年。我朝ニ飛來。故ニ新山ト云。①18ウ

本ハ般若山ト号スト云々。コノ説ナレバ異朝ノ飛來峯ニ似タリ。玄同ガ説ニハ。延曆年中ニ天神降テ。

ツクレル山ヲ柴山トモ号シ。又ハ新山ト名ヅクトイヘリ。然レトモ柴山ノ号。ステニ萬葉集ニミエタレバ。

延曆ニハジマレニハアラジ。又都良香ガ富士ノ記ニハ。涌出ノコトハ。ノセズシテ。記ノ末ニ云ク山ノ

東ノ脚ト云フ。小山アリ。土俗コレヲ新山ト云。本ハ平地ナリシガ。延曆二十一年三月。雲霧晦冥ナルコト

。十日シカフシテ後。山ヲ成。蓋神ノ造ナラントカケリ。土師玄同ガ新山ト名ヅク説ハ。蓋コレニ

由。又赤人ノ長歌ニハ。天地ノ分時ニ。神サビテ。高貴。スルガナル富士ノ高根ヲト云々。コレハ神

代ヨリコレアル由ナリ。又大内記。所ノ記ニハ。宣化天皇ノ時ノ出現トス。カクノゴトク異。及デダ

説區ナレトモ。涌出ノ事ナンゾ疑。後世伊豆ノ海薩摩ノ沖ニモ。嶋ヲ生ズ。例信スベシ。及デダ

ニナヲカクノゴトキノ不思議アリ。何況神代ノ昔ヲヤ。ナンソレゾ疑

四 星墜石トナル辨 附 雷斧雷楔ノ事

或問ハク。夫氣ノ清者。升天トナルト。カ、ル空虛ノ中ニ。イカン

ゾ磐戸アリ。山アツテ。地ニ墮ヤ。不審コノ理イカン。答。易ニ云陰陽不

測之謂レ神。マサニ知ベシ。ソノ萬物ニ妙ニシテ。不可思議ノ

境界ナリト。凡夫ノ狹智ヲモツテ。測知ホドノ境界ナラバ。ナンゾ神ト

名。只仰コレヲ信ズベキノミ。然レトモ理ノ外ト云フニハアラズ。

蓋ソノ理幽深ニシテ。解シガタク。達シガタク。孟子モ亦云聖ニシテ。

而知ベカラズ。コレヲ神ト云フト。併ミルベシ。然トモ且我解ノ分際

ヲノベン。ソノ不測ノ地ニ至ハ。子ソレ默識心通セヨ。蓋夫陰陽ニ。對

待アリ。流行アリ。絶對アリ。對待ト云ハ。天地位ヲ異ニシ。男女相ヲ

分等。是ナリ。流行トハ。春夏秋冬。晝夜旦暮ト。移行等是也。絶對

トハ。陰中ニ陽ヲ含。陽中ニ陰アツテ混ジテ分ガタクキ是ナリシカレバ。天

ハ陽ナレトモ。ソノ中ニ。地ノ陰ヲ含。所謂月ヲ陰ノ精トシ。淮南子

ノ精トシ。三五銀河ノ横ル。①19ウ

日ノ中ニ閭虛アルガゴトキ是ナリ。又地ハ。陰ナレトモ。ソノ中ニ陽ヲ

含。ソノ温ナル氣ヲ藏。或ハ熱湯ヲ湧ス等是其標ナリ。甚シキトキハ。火煙ヲ

コシ。震動スルコトアル

ハ多ハ。陽上ニノミアツテ。下ニマハラズ。地陰下伏シテ。上ノ溢也。若タゞ天陽上ニノミアツテ。下ニマハラズ。地陰下伏シテ。上ヘ升ザレバ。天地否ノ卦ニシテ。萬物生育せず。年ニトツテハ七朔ナリ。コレ秋ノ初也。又陽ハ下ヘクダリ。陰ハ上ヘ升ハ。陰陽和合シテ。地天泰ノ卦ナリ。年ニ取ハ。正月ノ卦ナリ。天時人事有情非情。トモニ伸々ト。心泰ニナリモテユクハ。三陽交泰ノ徳ナリ。シカレバスナハチ。天地對待ノ位ヲ言トキハ所謂陽ノ輕清モノハ。上天トナリ。陰ノ重濁モノハ。降地トナルナリ。然トモ絕對ヲ云ニ至ハ天ニ地ノ理アリ。地ニ天ノ氣アツテ。渾合シテ相生ジ相成ズ。

易ノ所謂。天地網紘ノ理。萬物化生ストイヘリ。内典真言ノ六大無礙ノ蹟ヲ。工夫スベシ。若コノ理ニ達スルトキハ。天上ニ石アリ。山アルコト。又ナンゾウタガハン。イハユルコノ理アレバ。必コノ事アリ。然トモ。縁ナケレバ現ゼズ。既ニ現ズベキ時至。神ノ因縁ヨリシテ現ジヌ。若コレヲ信ゼズンハ。星隕テ石トナル。又コレナンノ理ゾ。試ニコレヲアゲン。通鑑ニイハク。周ノ襄王八年正月ニ。宋ノ國ニ隕モノ五ツト。左傳ニモ。コレヲノセ五隕也。又秦ノ始皇卅六年ニ東郡ニ隕。又云前漢ノ元帝ノ時梁ノ國ニ隕ト。又朝鮮ノ史記ニ云。高麗王文宗ノ時。黃州ニ隕石アリ。聲雷ノゴトシ。國人コノ石ヲ都前漢ノ孝武帝ノ時。石雍州ニ隕。聲四百里ニ聞ト。前漢書ニイヅ。コレニツグ。一シルサ。①20ウ

ズ餘ノ星ノ怪。又筆談ニ雷斧雷楔ノコトヲノス。雷斧ト云ハ。銅鐵ヲモツテ作ハ。コレヲ鑿ス。雷楔ヲツル跡ニアリ。又雷楔ト云フハ石ナリ。斧ノニ似テ。孔ナシト云ヘリ。事文類聚前集第四ニ本朝ニモコレアリ。羽州鳥海山ノアタリニハ。ヨリヨリコレアリ。是ヲ神箭トナヅク。雷電風雨ノ後。往々ニコレヲ拾。處ノ者神軍アリトス。コレヲ拾得テハ。除災ノ守トスルナリ。余ソノアタリノ領主ノ直説ヲキ。殊ニミヅカラ懷中ヨリイダシ

テ。コレヲ示ル。磨ルヤウナル石ニシテ。尖矢ノ根ノゴトク。長三寸バカリ。廣七八分モアルベシ。ツラツラミルニ。カノ筆談ニノスルトコロノ雷楔ナリ。領主云大小サダマラズ。是ソノ中ノ大ナルモノナリト。因縁集ニコレヲノセ。①21オ

テ云。極月大寒ノ時。風烈フイテ。雪霰フリツム。ソノ中ニ石ニアラズ。金ニアラズ。箭ノ根交リテ降。トコロノ民神軍アリト。恐怖スト云々。領主ハ雷電風雨ノ時多コレアリト。所ノモノハ云トソ學類編ニ。雷斧ヲ辨ジテ云。此星隕石トナルガゴトシ。天二本ヅクモノハ。氣ニシテ。形ニアラズ。偶地ニヨツル時ハ形ヲナス。然トモ盡シカルニハアラズト云。所謂天ニ星アルハ。地ニ石アルガゴトシト。然レモ星ハ氣ヲ主トス。故ニ輕清。上光アリ。石ハ氣ノ核ナリ。物理故ニ重降。地ニアリ。コレハ是對待ノワカレタルナリ。孟康ガ云。星ハ。石也。金石相生。人ト星ト。氣相應ズト云ガゴトキハ。氣ト質ト。異ナルニモアラズ。天ト人ト氣ヲ同スルコトヲ明ユヘンナリ。蓋是絕對ノ妙合。間ニ髮ヲ容ズ。若コノ理アルニアラズンバ。神ト云トモ。強コレヲ能スルコトアタハジ。空濶タル大。①21ウ

虚ノ中ニ。モトコノ妙理アルユヘニ。神力コレニ加シテ。石ヲ出。山ヲ拋來。ナンノ疑コトカコレアラン。説文ニ云。天神トイツハ。萬物ヲ引出モノナリト。固ニ然哉。所謂陽ノ靈ヲ神トシ。陰ノ冥ヲ鬼トナス陰ハ萬物ヲ收歸ス。莊諾ノ尊ハ。男神ニシテ陽ナリ。サレバ近江ノ國。日之少宮ニ留住玉。毎日千五百頭ヲ生ゼンシテ。玉ヘリ。故ニ人モツテ壽命神トス。又能野ノ權現ハ。女體ニシテ陰神ナリ。乃コレ伊弉册ヲ尊ニシテ。一日二千頭ヲコスベシトノ玉ヘリ。コノユヘニ命乞ノ神トヲモヘリ。又天照太神ハ女體ヲ尊ジ玉ヘトモ。火德ノ神ニテ在コト。神書ノ習ナリ。易ノ陰陽不測ノ文ニ由トキハ。陰陽共ニ通シテ神トモ各ツクトイヘリ。蓋陰陽ノ兩神ハ。一往マツ對待ニ約シテ云。天照太神ハ絶待ニ約シテ云ニ似タリ。故ニ天ノ上ノコトヲモ知メン。又下地ノ宗廟トモナリ玉ヘリ。

五 女媧五色ノ石ヲ鍊テ天ヲ補ノ辨 附 神力疑ヘカラザル事

或問。星地ニ至。形ヲナサバ。石又天ニ上氣トナルカ。答テ云。コノ理幽深ニシテ。且一途ニアラザレバ。容易述ガタシトイヘドモ。①22オ

玄冥神ノ水ヲ主。

① 24ウ

回録神ノ火ヲ恣ニスルヨリ。五岳四瀆ノ大。宮殿林樹ノ區。

ナルニ至ルマデ。皆鬼神アラズト云コトナシ。五岳四瀆等ノ神ハ支那ノ史傳ニイッ。

其神或ハ形ヲ現ジ。人ニ託シテ。感應モ亦空カラザレバ。異國ノ人モ

多ハウタガハズ。間晉ノ阮瞻ガゴトキモノ。無鬼論ヲ執シ説コトアツテ。

忽鬼ヲ見テ。病ヲ感ジテ死シ。又馮大異ガ鬼神ハ。ナキモノ

ナリト言。ツキニ生ナガラ。鬼谷ニ墮テ。苦ヲウケシタグヒアルガ

ゴトキ。後車ノ警トスベキユヘンナリ。宋ノ張子厚ナトモ。鬼神

ハ唯陰陽屈伸ノ理ノミト説。ソノ所謂鬼神ト云モノアリト云コトヲ信ぜズ。

宋ノ時ニ進士ノ鴻儒。李屏山ト云人。ヒロク内典外典ヲ閱シテ。頗ソノ

深趣ヲ得タリ。因張子厚ゴトキノ宋儒ノ偏見ナルトコロヲ。詳ニ

辨ゼリ。並ニ載鳴道集説ニアリ。五卷アツテ。又空谷禪師。雲棲大師ナド。

ナヲサラ精コレヲ明玉ヘリ。頃無禪子ト云人アツテ。鬼神辨話ト云書

二卷ヲ編ジテ先ハ四書六經ニアラユル鬼神ニワタレル語ヲ引。粗宋朝諸儒

ノ言ヲアゲテ。種々ニ辨證ヲ列決テ。鬼神ノ一路アルコトヲ明。嗟乎

鬼神ノ徳ノ盛ナル。今サラ論ズルニ及ス。楞嚴ニ。十類ノ鬼趣ニ。十因ア

ルコトヲ明セリアニ翅鬼類ヲ説ノミナランヤ。無量ノ夜叉大將。諸ノ羅

刹王諸ノ大鬼王。及諸ノ鬼帥等。日月天子。風師。雨師。雲師。雷師。

電伯等。及山神。海神。一切ノ土地。水陸空行。萬物

ノ精祇等。悉ソノ會座ニ列コトヲ明。其事クハシク第七ニアリ。コレ楞嚴會上ノミ

鬼神衆アルハ。佛法ノツネノ事。又地行仙飛行仙等ノ十種ノ仙人アルコトヲ説。支

那國ニ至。黄帝ヨリコノカタ。仙道ヲ得モノ七百餘人ノ中。其擇抽

モノ一百四十六人ナリ。漢ノ劉向ガ列仙傳ニノスルトコロナリ。梁ノ劉孝標ガ曰。七十餘人ハ。佛經ニイヅト。或ハ天ニ昇風ニ

佛神感應錄卷一

御シ。變現自在ナルコト。傳記ニノスルトコロノゴトシ。何ニ況キ神國上

古ノ太神ヲヤ。金光明ノ疏ニ云ク。神トイッハ能ナリ。大力ノ者ヨク

ハ。山ヲ移海ヲ填小力ノ者ハ。能隨顯變化スト。能コレヲ思ベシ。

① 26オ

① 裏表紙

〔三國〕
因縁 佛神感應錄 二

②表表紙(題簽欠。以他本補)

(白丁) ②表表紙見返

佛神感應錄卷第二目錄

- 一 世界總ジテノ成壞ノ事 附 上古自然ノ食味具事
- 二 釋迦如来世系ノ事 附 誕生等異説ノ事
- 三 孔子生卒不同ノ例ヲ引事
- 四 天神七代ノ事 附 大唐世ノ始ニ盤古王ヲ立事
- 五 地神五代ノ事 附 蒼不合ノ尊御治世ノ季ニ唐ノ代ヲ配當スル事
- 六 日本朝鮮神國ノ論辨アル事

②01ウ

佛神感應錄卷第二

- 一 世界總ジテノ成壞ノ事 附 上古自然ノ食味具事
- 抑 釋門ノ遺法ニヨツテ。略シテ世界ノ成壞ヲノブルニ都成住壞空ノ四ニイデズ瑜伽論ニ云。コノ世界二十中劫ハ壞シ。二十中劫ハ壞シ已空ナリ。二十中劫ハ成シ。二十中劫ハ成シ。成シ已住ス。カクノゴトク。八十中劫ヲ假ニタテ、一大劫數トスト云。雜集論ノ第六コレニ同。壞テハ成シ。成ジテハ。又壞空ズルコト。環ノ端ナキガゴトクニ。輪轉シテ止ズ。是有為轉變無常輪廻ノ大總相ナリ。傷哉コノ中ニアラユル衆生。解脱ノ種ヲウエザレバ。世界トトモニ流轉シテ。生死ノ苦限ナシ。アニ出離ノ行ヲ勵ザランヤ。其世界ノ壞スルト云ハ。大ノ三災ニヨルガユヘ
- ②02オ
- ナリ。初火災起。初禪天ヲ壞シ。七タビノ火災相ツイデテ。次ニ第二禪ノ中ニ

イテ。俱生ノ水災起。二禪ヲ壞ス。七タビノ火災。七タビ起。ソノ
 災ノ後 第三禪ノ中ニツイテ。俱生ノ風災起。第三禪ヲ壞ス。具ニハ俱舍論
 シ。小ノ三災ハ。大ノ三災ノ前。人壽三十歲ニ
 飢饉災。二十歲時疾病災。十歲時刀兵災起。壞シ了空ナルコト。二十中劫。蓋渾
 沌未分ト云ガゴトシ。瑜伽ニ云。カクノゴトク二十中劫ヲスギヲハツテ。

一切有情ノ業。増上力ノユヘニ。世間復成ズト云。次ニ第三禪ヨリ以下。二禪
 カ。法華文句ニ云。劫初ノ大水ノ風吹結構。以世界ヲ成ズ。光音天
 ノ命ツキタルガ。化生シテ人トナル。按ズルニ。文句四ノ二ノ記ニ云。光音天ハ。第一
 ハ。第四禪ノ壽盡。業盡。福盡有情生ジ。第二禪ハ。第三禪ヨリ生ジ。初禪ハ。二禪ヨリ生ズ。第一
 トミエタリ。瑜伽ノ文ニハ。第三禪ハ生ズルハ。第三災頂ノ有情トアツテ。第四
 禪トハナシ。シカレトモ頂ノ字ノ釋ニニ義アリ。一ニハ頭頂ノ義ナリ。シカレバ第三禪頂上ヲ云。二ニ
 ハ蓋頂ノ義ナリ。コレハタトヘバ香爐ナドノ蓋ノゴトシ。ソノ時ハ身ヲハナレテ。丁重上ニ別ニアラユ云
 ヘリ。コ、ニハ後ノ義ニ依。第四禪トス。證眞ノ文句ノ私記第二ニ。尸棄大梵王ヲ釋スル下ニ。尸棄ヲ火
 頂ト 翻譯スルニツイテ。或ハ初禪ノ主トシ。又ハ第二禪ノ主トス。火災頂ノ事ニヨツテ。コノ二ノ釋
 ヲ設タリ。具ニハカレニ論ズルガゴトシ。サテ色界ノ三禪成ジ畢。欲界四天ノ宮殿。ヤウヤク成ズ。瑜
 伽ニイハユル。カノ諸ノ宮殿。皆化出スルガゴトシ。又初禪ノ中ノ上品。極淨光天ノ有情没シテ。コノ
 天ノ宮殿ノ中ニ生ズトイヘリ。具ニハ俱舍論等ニ説ガゴトシ。又慧心。身ニ光アツテ。飛行ス。

歡喜ヲ食トス。男女尊卑ナシ。ノ神祖ニ國常立ノ尊ヲ立ルニ似タリ。然レトモ上古ノ事ニ
 シテ。各各ノ國ナレバ。モロノトモ。ソノナカ。ムマレ。オンデシユヤ
 強和會スベカラズ。衆共ニ。其中ニ生タルヲ呼衆生トス。自然ノ地味ア
 リ。味醍醐ノゴトク。色ハ生蘇ノゴトクニシテ。甜コト蜜ノゴトシ。乃
 便 勝負ノ心アツテ。相是非スルガユヘニ。地味ヲ失テ。自然ノ地皮ヲ
 食ス。轉相輕慢スルガユヘニ。地皮ヲ失テ。地味ヲ食ス。轉諸ノ

惡ヲ生ズレハ。地膚ヲ失テ。自然ノ粳米ヲ生ズ。コレヨリ下ニ粳米ヲ食スルユヘニ。
 家ヲ造。米ヲ儲。心アルユヘニ。穰糶ヲ生ズト云。三界義ニ云。若劫章ノ次第二ヨラバ。地肥。地味。
 地餅。隱テ後。林藤生シ。林藤カクレテ後。粳米出。粳米失テ後。香稻生ズ。香米等ヲ食スルニヨツテ。
 身ノ光卸滅シテ。世間黑暗ナリト云云。三災劫量劫初ノサタハ。是ニツイテ。其主王ヲタ
 法苑珠林等ニ諸ノ説ヲアツムルミツベシ。コレタ。一途ヲ引ノミ。

ツルコト。次ニ紀スルガゴトシ

②03オ

釋迦如來世系ノ事 附 誕生等異說ノ事

抑釋迦牟尼如來ト申シ奉ルハ。塵點劫ノ昔ヨリ。久遠實成ノ佛ニテ在
コト。妙經壽量品ニトキ玉ヘルガゴトシ。然トモソノ世界悉檀ニヨツテ。
中天竺摩訶陀國淨飯大王ノ太子ト生サセ玉ヘル。其先祖ノ古ヲ尋ニ。
佛本行經ニイハユル。コノ仁賢劫ノ初。建立シ已コレ蓋

建立成ジヲハルナリ。又仁賢劫。大轉輪王アリ。衆集置ト名ヅク。二ハ。王種ナリ。刹帝利ト
トハ。今現在ノ世界ノ名ナリ。大轉輪王アリ。衆集置ト名ヅク。二ハ。王種ナリ。刹帝利ト
主ト云。劫初ニ。大地味ヲ食シ。轉シテ自然ノ粳米ヲ食ス。後二人情ヤウヤク。偽アリテ。各封殖アリ。
ツイニ德アルモノヲタテ、平ニ處シテ。田ヲ分コレ王者ノ始ナリトイヘリ。文句第一モ。ヤ、コ
レニ同。但文句ニハ。田主トモ。民主トモイヘリ。而シテ曰。民主ナリトナツク。珍寶子アリ。
好味トナツク。始テ民主神創シテヨリノ後。金輪アヒツグトイヘリ。シカレバコノ佛本行經ノ大轉輪王ト
云ハ。蓋國民。又ハ。大衆平草地生ト名ヅケ。又ハ刹利王ト名ヅク。王ニ長
子アリ。眞實トナツク。子孫相承コト。二十七世。各千子アリ。通ジ計ルミナ

大轉輪王ナリ。蓋三千世界ノ中。分レユイテ。諸大須弥王ニ至。子孫アヒツイデ。
魚王ニイタルマデノ一十七世ハ。乃ミナ小轉輪王ナリ。魚王ニ子アリ。眞
生トナツク。大茅艸王ニ至。三十一世乃ミナ粟散王ナリ。或人ノ曰。民主大轉
七世ハ。本朝ノ天神七代ノゴトク。大須弥王ヨリ。魚王マデノ一十七世ハ。地神五代ノゴトシ。 ②04オ
又眞生王ヨリ。

大茅艸王ニ至ルマデノ三十一世。及ソレヨリコノカタハ。人代ノ初神武天皇ヨリヲチツカタノ代ノ帝王
ノゴトシト。コレ併運ノ次第二ウツリカハリ。德ノヤウヤク減ジユクニ。ナゾラヘミルニハ。可ナル
ベシ。同時同様トハ云ベカラズ。夫天神七代。猶コレ。天上ニ在テ。コトニ伊弉諾伊弉冉マデハ。陰陽
ノ交リトモナク。人民ノサタモナキ時ナレバ。轉輪王ノ須弥ノ四洲ヲ主ト玉ヒテ。千子ヲ生ジ。民主ノ
民ノ司トナリ玉ヒシヨリハ。遙ニ前ノコトニテ。コトニ天上ノ御事ナレバ。下地ノ例ニハナルベカラズ。
十二遊經ノ說ニ由キハ。大茅艸王ノ時ニ瞿曇ノ姓ヲ建ナリ。瞿曇トハ。翻譯ヲホキ中ニ應法師ノ翻譯ニ
地最勝トス。謂。天ヲ除テ。外人ルイノ中ニハ。コノ族。モツトモスゲバウツカシ。茅艸王ノ子甘蔗王ナリ。
ルト云。コレスナハチ世尊六種ノ姓ノ中ニハ。第一ノ姓ナリトイヘリ。

ソレヨリ別成王。拘盧王子。瞿拘盧王子。師子頰王。淨飯王ナリ。甘蔗王ノ因縁
ハ。菩薩本行經ニイデタリ。六種ノ中ニ第二ノ姓ナリ。釋迦如來ノ誕生シ玉フコト。
第三ハ日蓮。第四ハ釋迦。第五ハ舍夷。第六ハ刹利ナリ。釋迦如來ノ誕生シ玉フコト。
通慧ノ鷲嶺聖賢錄ノ中ニハ。八種ノ異說ヲツラネタリ。今世ニ四月八日
ヲ用フハ瑞應經及浴佛經ニヨリ。事マギラハシケレバ。又周ノ昭王二十四年。

甲 寅ノ歲トスルコトハ。周書異記及摩騰法師ノ說ナリ。コノ說後漢ノ法本内傳ニイ
ズ。後漢ノ明帝ニ。騰法師

ト答ノコト。唐ノ貞觀十三年ニ帝劉德威等ニ勅シテ法琳法師ニ問シム。諸
說區ナリ。イツレヲカ正トスベキヤト。コ、ニライテ琳法師。アマネク
諸說ヲ列アゲテ。ツイニ周ノ昭王丙ノ歲ハ。十六年甲寅トス。四月八日ト定ラレ
タリ。或ハ夏ノ朔ノ時。或ハ殷ノ武ノ時。或ハ穆王ノ時。或ハ東周ノ平王ノ時。或ハ周ノ桓王ノ時。或
ハ周ノ莊王ノ時。或ハ周ノ貞定王ノ時トイヘリ。サテコノ昭王ヲアハセテ。八說アリ。又二
月トシ。四月トスルノ異說ハ。周ノ代ニハ十一月ヲ用。正月トスレバ。今ノ二月ガ。スナハチ四月ナリ。
夏ノ代ノ正月ハ。今ノ時トナジ。佛ノ出世ハ。周ノ代ニアタルトイヘドモ。經ノワタルコトハ。漢魏ノ
頃ナリ。コトキスデニ夏ノ正月ヲ用。ユヘニ經ヲ翻譯スルモ。亦夏ノ曆法ニシタガフ。コ、ヲモツテ。
四月ト云ハ。今ノ四月ナリ。シカルニ周ノ四月ナレバ。今ノ二月ナルベシトハ。聖說ナリ。名義集ナド
ニモ。西域傳ナドヲ引。コノ說ヲ用タリ。南山ノ宣律師コノ說。多コトハイカナルコトニヤト。天
人韋氏ニ問玉フニ。ソノ答ニ云。コレ感通傳ニイデタリ。略シテコレヲ引。此ミナ ②05オ
ユヘアリ。且佛ニ三身アリ。法身報身ハ。下地ノ人ノミルトコロニアラズ。
乃初地以上ノ菩薩ヲ化益シ玉ヘリ。唯化身ノ釋迦アリ。千百億化身釋迦牟尼佛ト
ニ。カウフラシム。コノユヘニ百億ノ釋迦アリ。云ル。アハセミルベシ。人ノ感
ズルトコロニシタガツテ。前後サダマラス。或ハ殷ノ末ニアリトシ。或
ハ魯ノ莊公ノ時ニアリトス。俱ニ大千ノ中ニアツテ。前後ミナ。一化ヲ
傳レバ。感見モ亦機ニシタガツテ。前後アリ。法報ノ二身ハツネニ自
湛然タリ。疑ニ足ズトイヘリ。按ズルニ佛ノ出家成道。涅槃ノ年紀ニ。不同アリ。コレニナ
諸師ノ異見アリ。コ、ニシゲクコレヲ引ズ法苑珠林ト法華玄贊ト佛祖統紀ト大部補註等ニ辨ズルガトシ。
佛祖統紀ニハ寶藏經等ヲ引テ。二十五出家。三十成道トシ。法苑珠林ニハ。普賢菩薩證明功德經ト。又
金剛經ノ疏ニ光讚經ヲ引等ニヨツテ。十九出家三十成道ヲモツテ。正トスルガゴトキコレナリ。又梵網經
ニ七歲出家トアルハ。内出離ニ約シテ說ト。教時詳ニ辨ジタリ。ソノ外一コレヲシルスニイトマアラ
ズ。 ②05ウ

夫周ノ昭王ノ井六年ニ。佛出世シ玉フニヨルトキハ。本朝地神五代ノ尾。
鵜茅菅不合尊ノ在位ノ季。八十三萬五千六百七十七年ニ當。人皇ノ始
神武天皇ヨリハ。三百七十餘年以前ナリ。按ズルニ元祿十年ヨリ神武天皇即位元年マデ。
二千三百五十七年ト云云。

孔子生卒不同ノ例ヲ引事

一ノ儒生アツテ問。釋迦ノ誕生。及出家。成道等。イカナレハ。異說

紛紜トシテ。一定ナラザルヤ。コレモト虚妄ノ談ナルガユヘニ。慥ナル
説ナキニアラズヤ。答テ云。コレ若我教相ノ判ニ由トキハ。大小ノ機見
同ザルニ約シ。教時評等ノ判釋ナリ。又ハ各所以アレバ。強和會スベカラズノ説
ニヨル。天台疏ノ真記ニ諸文ヲ引テ。但世間ノ實迹ニツイテ。コレヲ論ズルニ。
②06オ

年代悠久ニシテ。山川萬里ナリ。漢書ニ云大目氏長安ヲ去
コトモアニナシトセンヤ。コ、ヲモツテ法琳法師。真妄ヲ分辨ジ。後賢
増正シテ。周昭甲寅ノ年ト定タルガゴトキ是ナリ。出家成道ノゴト
キモ異説アリトイヘトモ。各歸スルトコロナキニアラズ。若ソノ説區
ナルヲ以。佛法モ亦虚妄ニシテ。慥ナラズトイハム。足下ノ尊トコロノ
孔子ノ生卒モ。亦復區ナリ。コトニ是ハ。釋尊ヨリ後ニシテ。シカモ
震旦國裏ノ聖人ナレハ。當時ヨリ家家ニ相ツタヘテ。人人ニ相稱ズ。シ
カルニカク異説アルコトハナンゾヤ。コレモ亦。年代悠久ナルガユヘニ。
真妄相マジハルニアラズヤ。但子ガ佛法ヲ難ズルガゴトクナラバ。儒道
モ亦慥ナラザルユヘトヤイハン。試ニソノ一二ヲアゲン。公羊傳ニハ
襄公二十一年。
②06ウ

十一月庚子ニ。孔子生ト記史記ノ出家ニハ。襄公二十二年トス。胡ハ公
ジナ。又孔子六十代ノ孫。承先ノ誌ニハ。年ヲ記スルコトハ。史記ニ同ケ
レトモ。月ヲ十月トス。又ソノ卒玉ヘル年月ヲイハム。左傳ト史記トニ
ハ。魯哀公十六年四月己丑ニ卒ス。年七十二トシ家語ニハ七十二トス。
史記ノ索隱ニイハク。若ハ孔子。襄公二十一年ヲ以生。哀公十六年ニ卒ストセバ。
ソノ年七十四トシ。若ハ襄公二十二年ニマルトセバ。卒スル年七十三トイヘリ。又承先ノ誌
ニハ。哀公十六年四月乙丑トス。大明ノ宋景濂孔子生卒ノ辯ヲ作トモ。
イマダ一決セズ。本朝ノ羅山子。又其考ヲナシ。且孔承先ノ誌ニシタ
ガヘリ。文集七十一ニ。ミヘタリ。乃謂。十月庚子ハ。即今ノ八月二十七日ナリ。
又四月乙丑ハ。即今ノ二月十八日ナリ。コレ實ヲ得タリトスト云云。タゞ是ノミ
②08オ

ニアラズ。凡天下ノ事。世遠境遙ナレバ。アニ傳寫流通ノ誤ナカラ
ンヤ。所謂己
②07オ

亥ヲ誤。三家ト記。家語并ニ四書故事ニイデタリ。子夏ソノ躑鴟ヲ誤。羊トナス
ノ類。顔氏家訓ニイツ。羊ノ異名ヲ躑鴟トス。蜀都賦ノ註ニ。羊ノ字ヲ。寫アヤマリテ。羊ノウエニ
字トス。アルヒトコレヲコトコラコトコラ考ズシテ。羊ノ異名ナリトヲモヒ。書簡ニ書テ笑ハレタリ。アヤウキ
馬ノ誤アゲテ算ガタシ。故ニ孔子曰ズヤ。多聞多見テ。疑シク。殆
ヲ闕。謹ソノ餘ヲ言行ト。コレ孔子。子張ニツグルノ語ナシ。子ナンゾコレヲ思ス
シテ。卒尔ニコレヲ謗ヤ。昔大史公史記ヲ編ニ。黃帝ヨリ已降。漢ノ
武帝ノ天漢四年マデ。凡二千四百一十三年ノ事迹ヲノス。黃帝ヨリ上ヅ
カタハ。文獻足ズ。具ニ考定ガタキユヘニ。略スルナラン。今流布ノ
史記ニ。全三皇ヲ載ハ。後世唐ノ世ニ至テ。司馬貞コレヲ補入シナ
リ。シカレトモ。ナヲ上古ノ始。盤古氏ヨリ相ツゲル。天皇氏。地皇氏。
人皇氏。五龍氏等ノ諸代ヲシルサズ。又コレナシトハ言ズ。
②07ウ

上古ノ上古ナレバ。蓋是疑。殆ヲ闕ノ餘意ナルカ。釋尊及孔子ノゴ
トキハ。シカラズ。幸ニ古今ノ通説。天下ノ公論アリ。タトヒ異説多ト
云トモ。ソノ確實ニシテ正。多分ニシカモ要ナルニシタガヘバ。最
疑殆コト鮮。ナンノ議スベキトコロカアラン

四 天神七代ノ事 附 大唐世ノ始ニ盤古王ヲ立事
欽。本朝ノ初ヲ原ニ。神代ノ卷ニ云。古天地イマダ割ズ。陰陽ワカ
レザルトキハ。混沌。雞子ノゴトシ。溟滓而牙ヲ含。ソノ清
陽者ハ。薄靡天トナリ。重濁モノハ淹滯テ。地トナル。乃天先
成。地後ニ定。然シテ後。神聖ソノ中ニ生故ニ云。開闢ル初ハ。
州壤浮漂コト。タトヘバ。游魚ノ水ノ上ニ浮ガゴトシ。時ニ天地ノ中
ニ一ノ物ナレリ。狀葦牙ノゴトシ。
②08オ

便化シテ神トナル。國常立ノ尊ト號シタテマツル。古事紀ニハ御中主ノ尊ヲ以テ
元始トス。元元集ニイヘラク。
隱顯殊ナリトイヘト。又ハ大元尊神トス。神皇實錄ニ云。國常立ノ尊ハ。名ナク
モ。其實ハ一ナリ。則元氣ノ元神。地ニアツテハ。スナ
狀ナキノ神ナリ。天ニアツテハ。スナハチ一靈ノ元神。人ニアツテハ。スナハチ性命ノ元神ナルガユヘニ。大元
尊神ト號ストイヘリ。コレ乃天神七代ノ初ニテ。在和漢年表錄。及帝王
略記ノ和漢ノ運ヲ對シ合タルニハ。異朝ノ始祖盤古王ヲモツテ。配當
ス。綱鑑ニ云。天地相分ノ後。人倫並生。初テ世ヲ治。君ヲ盤古氏ト
名ツケ。或ハ渾沌氏ト號シツ。大古ニ生長シテ。其始ヲ知モノナシ。
ヨク天地ノ道ヲ明ニシ。陰陽ノ運ヲ知。故ニ三才ノ君ト稱ズ。地理神鑑述異記
ノコトヲノス。前ニブル又神皇正統紀ニ
考テ云。盤古氏天下ヲ治コト一萬八千年。天皇地皇。人皇ナド云王。

相ツビイテ。九十一代一百八萬二千七百六十年。サキニアハスレバ。一百
十萬七百六十年也。正統紀ノ細註ニ云。コレ一説ナリ。然ハ盤古ノ初ハ。彦火火出見ノ
尊ノ尊在位六十三萬七千八百九十二年。次ス。季ニアタルベキニヤト云。愚按ズルニ。年
尊ノ尊不合ノ尊ハ。八十三萬六千四百二年。數ヲタツルヲモ
ツテ。料ミルトキハ。彦火火出見ノ尊ノ未ニアタルトイヘトモ。トカク盤古ト云ハ。異朝開闢ノ始ノ帝ノ
名ナレバ。ソノ名位ヲ論ズルトキハ國常立ノ尊ニ配スベキカ。但神運ヲ論ズルトキハ。本朝早ヒラケ。
人代ヲ云トキハ。異朝サキダツテハ。佛門ニイハユル。劫初ト云ニ。ヲナジキノミ。又コノ國常
立ノ尊ヲ豐受大神トモ申奉。鎮坐本紀ニ名ケテ。天御中主ノ神ト云故ニ。豐原ノ中
ヲヒラキ受ノ義ナラン。又萬葉書ニ。止由別シテ云トキハ。水德ノ御神ニテ。マシマ
氣太神トモカケリ。又ハ止由居トモカケリ。別シテ云トキハ。五行ノ德ヲ全。②09オ
世ドモ。元元集ニ水德變ジテ。シカモ神ソツ
具玉ヘリ。正統紀ニモ。コノ神ニ。水火木金土ノ五行ノ德マシマストイヘシヤト云キ
ル。先水德ノ神ニアラハレ玉フヲ。國狹槌尊ト云。次ニ火德ノ神ヲ。豐
斟潭ノ尊ト云。天ノ道。ヒトリナスユヘニ。純男ニテマシマス。純男トイ
ソノ相アリトモ。次ニ木德ノ神ヲ。渥土泥ノ尊沙土煮尊ト云。次ニ金德ノ神
サダメメカダシ。次ニ土德ノ神ヲ。面足ノ尊惶根尊ト

云。天地ノ道相交。各陰陽ノカタチアリ。シカレトモソノフルマヒ
ナシト云ヘリ。コノ諸神。實ニハ國常立ノ一神ニマシマスナルベシ。五
行ノ德。各神トアラハレ玉フ。コレヲ六代トモカゾフルナリ。二世三世
ノ次第ヲ立ベキニハアラザルニヤ。次ニ化生シ玉ヘル神ヲ。伊弉諾ノ尊
伊弉冊ノ尊ト申ス。コレハ正陰陽ノ二二分テ。造化ノ元トナリ玉フ。
上ノ五行ハ。猶一ノ德ナリ。コノ五德ヲ合テ。萬物ヲ生ズル初トス。
コレマデヲ天神茲ニ天祖國常立ノ尊伊弉諾伊弉冊ノ二神ニ敕シテ宣。
七代トスルナリ。汝ユイテシラスベシトテ。即天ノ瓊
豐蘆原ノ千五百秋ノ瑞穂ノ地アリ。汝ユイテシラスベシトテ。即天ノ瓊
矛ヲ授玉ト云云コノ矛。又ハ天ノ逆支トモ。又ハ天ノ魔返支トモイヘリ。コノ矛ヲ持テ。天ノ浮
橋ヨリ。滄海ヲ探玉フコトハ。前ニイダセバ。コレヲ略ス。コノ御神各異名
ヲハシマス。具ニハ神代ノ卷ノゴトシ。コ、ニ一コレヲ出サズ

五 地神五代ノ事 附 尊不合ノ尊御治世ノ季ニ。唐ノ代ヲ配當スル事
所謂地神五代ノ第一代ヲ。大日靈尊ト申ス。大日靈ノ天照太神是ナリ。又
日神トモ。皇祖トモ申ス也。コノ神ノ生玉フコト。三ノ説アリ。一ツニ
ハ伊弉諾伊弉冊ノ尊。相ハカラヒテ。天下ノ主ヲ生ザ
ランヤトテ。先日神ヲ生。次ニ月神。次ニ蛭子次ニ素盞尊ヲ生玉フト
モイヘリ。又伊弉諾ノ尊左ノ御手ニ白銅ノ鏡ヲトリテ。大日靈ノ尊ヲ化
生シ。右ノ御手ニ取テ。月弓ノ尊ヲ生ジ。御首ヲメグラシテ。顧玉ヒ
シアヒダニ。素盞尊ヲ生ズトモイヘリ。又ハ伊弉諾ノ尊。日向ノ小戸
ノ川ニテ。ミソギシ玉ヒシ時。左ノ御眼ヲアラヒテ。天照太神ヲ生ジ。
右ノ御眼ヲアラヒテ。月讀ノ尊ヲ生ジ。御鼻ヲ洗テ。素盞尊ヲ生ジ玉
フトモイヘリ。正統紀ニモコノ三説ヲノセテ云。日月神ノ御名モ。三ツア
リ。化生ノトコロモ三ツアレバ。凡慮ハカリガタシ。又ヲハシマストコロ

②08ウ
②09ウ

②10オ

②09ウ

②09ウ

②09ウ

モ。一ニハ高天原ト云。二ニハ日ノ小宮ト云。三ニハ我が日本國コレナリ。
八咫ノ御鏡

ヲトラセ。マシマシテ。我ヲミルガゴトクニセヨト。敕シ玉ヒケル事。

和光ノ御誓モアラハレテ。コト更ニ深道アルベケレバ。三所ニ勝劣ノ

義ヲ存ズベカラザルモノナリト書タリ。按ズルニ天照太神。八咫ノ鏡ヲ初忍穂耳ノ尊ニ

ニ後又瓊杵ノ尊ノコノ界ノ主トナリテ。下玉フトキニ付授シ。今按ズルニ。天照太神三化

生ノ御事ハ。本日本書紀ノ説ナリ。所謂神ノ格コト付ベカラザレバ。ア

ニ一化ニシテ。シカモ一處ナランヤ。後世スラ。ナヲ縁ニ任テ。魂ヲ分

玉フ。廣田。攝津國武庫郡乃天照太神ノ荒魂ナコ。島野郡太秦邑三鎮座シ玉フ。コレス

ノ時文章生英房ガ遊仙窟ノゴトキ是ナリ。又日本紀ヲ按ズルニ。大日靈ノ貴。コ

ノ子光花明彩。六合ノ内ニ照徹。故ニ神喜。曰。吾

息多アリトイヘトモ。イマダカクノゴトキノ靈。異兒ハアラジ。久コ

ノ國ニ啗ベカラズ。自マサニ早天ニヨクリテ。シカモ授ニ天上ノ事ヲ

以スベシトノ玉ヘリト。コレニヨツテミルトキハ。天照太神。初ハ父母

ノ二神ト。地上ニ在トイヘトモ。明彩靈異ヤンゴトナク在ユヘニ。天ニ

送玉フトナン。然トモ初地上ニヨイテ。化生シ玉ヘルニ約シ。一ニ云。日

生玉フト。且ハ二柱神アヒハカラヒテ。天下ノ主ヲ生ザランヤトノ玉ヒテ。

誕生玉ヘバ。タトヒ天上ニ在トイヘトモ。日本ノ御主ノ定ナリ。コノユ

ヘニ地神ノ初ト仰ナラン。親房卿モ。天照太神吾勝尊ハ。天上ニト、

マリ玉ヘド。地神ノ第一ニカゾヘ奉。ソノ初天下ノ主タルベシトテ。

生玉ヒシユヘニヤト宣ナレ。又伊弉諾伊弉册二神ハ。初磯馭盧島二下

居サセ玉ヘトモ。本天ニテ化生シ玉フユヘニ。天神ニ列タテマツルナラン

按ズルニ。神功ステニヨハリテ。伊弉册ハ。サキニ神退マシテ。黄泉ニヨハシ。伊弉諾ハ。

後天上ニノボリ。天祖ニ報命シテ。天ニトマリ玉フトイヘリ。具ニハ神書ノコトシ

ノ御諡ヲ。神漏美ト號シタテマツル。龜兆傳ニハ。神漏美トハ。高皇

産靈尊ノ諡。神漏岐ト申スガ。天照太神ノ諡號トアレトモ。多ハ前ノ

説ヲ正トストイヘリ。其外天神天上ニテノ御事。石窟ニコモラセ玉ヒシ事

ナドハ。神代ノ卷ノゴトシ。第二代正哉吾勝勝速日天忍穂耳尊ハ。高

皇産靈尊ノ女栲幡千千姬ノ命ヲ后トシ玉フ。初ハ。吾勝ノ尊葦原ノ中

州二下マスベカリシヲ。御子饒速日尊ト瓊瓊杵尊ト生サセ玉ヘバ。彼ヲ

下ベシトノ玉ヒテ。自ハ。天上ニトマリマス。先饒速日尊ヲ下シ玉

ヒシ時。外祖

高皇産靈尊。十種ノ瑞ノ寶ヲ授玉ヘリ。瀛津鏡一。邊津鏡一。八握劍一。生玉一。死

ノ比禮一。日物シカレ。反王一。足玉一。道反玉一。蛇比禮一。蜂

比禮一。是ナリ。然トモコノ尊。早神サリ玉ヒニケリ。正統紀ニ云。コノ尊ヲ

國ノ主トテハ。下玉ハザリシニヤ。吾勝尊下玉フベカリシ時ハ。天照

太神三種ノ神器ヲ傳玉フ。後ニ又瓊瓊杵尊ニモ。授マシ、ニ。饒速日ノ

命ハ。得玉ハズ。シカレバ日嗣ノ神ニハマシマサナルベシ。コレシカ

シナガラ。舊事本紀ノ説ナリ。日本紀ニハ。ミエズトイヘリ。第三代天津

彦彦火瓊瓊杵尊。天孫トモ。皇孫トモ申ス。皇祖天照太神。及高皇産靈

尊。イツキメテミマシマシテ。葦原ノ中州ノ主トナシテ。天クダラセ玉

フ初コノ國ノ邪神アレテ。容易下玉フト。カタケレバ。天稚彦ヲ下シ

玉ヒ。又次ニ経津主ノ命武甕槌ノ神ヲ下

玉ヘルト。及大汝神ソノ子八重事代主ノ神ノ天尊ノ敕ニシタガヒ玉ヒ

シコト。又大物主ノ神。事代主ノ神アヒ共ニ。八十萬ノ神ヲヒキイテ。天

ニ上玉ヒ。太神讚嘆シ玉ヒシコトナドハ。コレヲ略スサテ天照太神高皇

産靈尊ト相計テ。皇孫瓊瓊杵ノ尊ヲクダシ玉フ八百萬ノ神。敕ヲ

承テ。御供ニツカウマツル。諸神ノ上首三十二神アリ。ソノ中ニ五部

ノ神ト云ハ。天兒屋根命。中臣天太玉命。天祖天鈿女命。石凝姥命

②11ウ

②10ウ

②12オ

②12ウ

因縁。及豊玉姫ノ鷓鴣艸不合尊ヲ誕生玉フコトハ神代ノ卷ノゴトシ。
コノ尊天下ヲ治玉フコト。六十三萬七千八百九十三年トイヘリ。第五代
彦波瀲武鸕鷀艸不合尊ハ。玉依姫ヲ后トナシ玉ヘリ。妹玉姫ノコノ尊ノ
御治卅八十三萬六千四十二年

ナリトゾ。抑地神五代ノ中。初ノ二代ハ。天上ニトゞマリ玉ヒ。下ノ三
代ハ西州ノ宮ニテ。多ノ年ヲヨクリマス。御子四人ヲハシマス。第四ノ御
子神日本盤余彦ノ尊ト申スコレヲ太子ニタテ玉ヒテ天日嗣ヲナン續シマ
シケル。是即人皇ノ初。神武天皇ナリ。コノ尊不合ノ尊ノ御代。七十萬
餘年ニアタレル比。唐ノ三皇ノ初伏羲ト云玉出玉ヒヌ。次ニ神農氏軒
轅氏。三代合テ。五萬八千四百四十二年ナリ。一説ニハ一萬六千八百二十七年トイヘリ。

以下十七主四百三十二年。殷ハ湯王ヲ始ト
シテ。三十主。凡六百二十九年。尊ノ季ノ代ニアタルナリ。其次周ノ世トナリテ。第
四代ノ主ヲ昭王ト名ヅク。周ノ世ニナリテ。一百二十年昭王ノ二十六年ニ
當。天竺ニ釋迦如来出生シタマヒ。諸説前ニノブ。昭王ノ子穆王ノ五十三年
壬申ニアタツテ。御年八十二ニテ。或ハ七ニテ。十九入滅シ玉ヘリ。其後二百八十九
年アツテ。庚申ニアタレル年。コノ尊不合ノ尊カクレサセ玉フトイヘリ

日本朝鮮神國ノ論辨アル事

抑コノ豊葦原ノ千五百秋ノ瑞穂ノ國ハ。按スルニコノ日ノ本ニ異名ヲホシ。龍尚舍等考
名十一アリ。タトヘバ日本倭國ノルイコレナリ。又タゞ本朝ノミニ用テ。唐ニ通ゼザルモノ九イハユル豊
秋津洲。浦安國ノ類コレナリ。近ゴロ好古ト云儒生。アマネクタクツネモトメテ。スベテ二十六名ヲ得タ
リ。和漢通ジ用名。十五。ヒトリ本朝ノミニ用名十
一ナリ。カレコレ參考。ニ和漢通名ノ中ニハ大人國女王國ヲトシ又本朝ヒトリ稱ズル中ニハ。内木綿
之眞進國葦原ノ中國トヲモラセリ。右二十六名ハ。ステニ和尓雅ニノセタリ。今コノ四國ヲ加テ。三

十ノ名アリトス。中ニヲイテ豊葦原ノ千五百秋ノ瑞穂ノ國ト云ハ。天地開闢ノハジメヨリ。ステニコノ
名アリ。ソノ事。國常立ノ尊。陽神陰神ニサツケ玉ヒシ勅ニ聞エタリ。又天照大神。天孫ノ尊ニユツ
リマシマシシニモ。コノ名アレバ。根本ノ各ナリトハ。知ヌベシ。ソノ外一ノコハニシルシガタシ。ソノ
中日本國ト稱ズルコト。大明一統志ノ外夷ノ部ニハ。唐ノ威寧ノ初倭ノ名ヲ惡。更ニ日本ト号ス。ト
又括地志ニ和國ヲ則天皇后改テ日本國ト云フトアレド。然ドモ或ハ日本ト大ノ字ヲ加フルコト懿德
孝靈孝元等ノ御謚ミナ大日本ノ稱アリ。又垂仁天皇ノ御女大日本姫ト云ノルイコレナリ。又タゞ日本
トバカリ稱ズルハ。天神饒速日尊ノ天ノ磐船ニノリ。大虚ヲカケリテ。虚空見日本ノ國トノ玉ヒ。神武
武ノ尊ト稱ズルノルイハ。ミナコレ唐ヨリ。遙ニ先ナリ。ナンゾ則天ノ始テ付ナラン。蓋思唐ニ至
ハジメテヒロマリ。稱ズルナラン。又神代ノ卷ヲ按スルニ大日本豊秋津洲ヲ生玉フト云ヲミレバ。始ハ日
本ノ中ノ一處トミエタリ。大和ヲ日本ノ總名トシ。又ハ大和ノ國号トスルガゴトシ。正統紀ニ云。コノ
國漢字ヲ傳後國ノ名ヲカクニ。字ヲ大日本トカキテ。シカモ。耶麻土トヨマセタリ。又大日靈義ヲトラ
バ。ヲホヤマト、ヨミテモ。叶ベキカト云。アマツクシヤ。天祖。始テ基ヲヒラキ。日ノ神ナガク。
云一一名ノ因縁事ナガレバコレヲ客ス。

統ヲ傳玉フコノ故ニ。世人イヘラク。我國ニノミコノ事アリ。異朝ニハ
ソノ類ナシ。神國ト稱ズルコト宜ナラズヤト。シカルニ或ノ云。ヨモンミ
ルニ。吾國ノ鄰。朝鮮國モ。神國トイヒツベキ歟。イカントナレバ。カノ
國ノ書ニイヘラク。東方初君長ナシ神人アツテ。檀木ノ下ニ降。國人
立。檀君トシ。國ヲ朝鮮ト號ス。是唐堯戊辰ノ歲ナリ。其壽ナガキ
コト千四十八年トイヘリ。然ニアラズヤ。余謂。カ、ルコト輕シク云
募ベカラズ。此ハ是朝鮮舊記ノ一説ニシテ。朝鮮大唐竝ニ。コレヲ信ゼ
ズ。本朝ナラ更ニ考。明ベキ事アリ。先朝鮮コレヲ信ゼザルコトヲイハ
ゞ。大明ノ成化年中ニ。朝鮮ノ儒臣弘文館ノ徐居正等ノ諸學士。アマネ
ク朝鮮ノ古史舊編ヲアツメテ。東國通鑑五十七卷ヲ撰ズ。其首ニ。一〇一七ウ
コノ檀君舊記ノ説ヲアゲテ破スルニ。三義ヲ以ス。一ニハ堯ト竝立トイ
ヘドモ。按ズルニ堯ノ大唐ニ立ハ。上元甲子。甲辰ノ歲ニアリ。檀君ハ。
立。戊辰ナレバ。堯ニ後コト。二十五年。シカルニ竝立ト云ハ。非也
ト。是一ツ。二ニハ。唐虞ヨリ。夏商ニ至。世ヤウヤク。澆漓ニシテ。
人君國ヲ享コト。五六十年ニスギズ。シカルニ檀君ノミ。ヒトリ千四十八
年ニシテ。シカモ一國ノ主タルコト。信ジカタシ。サダメテ是檀君一人ヲ

云ニハアラジ檀君ノ子孫アヒツミイテ。合テ世ヲ保コト。一千四十八年ナ
ラン。前輩モ亦。カクノゴトクニ。評シ言ト。是二。三ニハ三韓馬韓辰韓
相分ザル前ノコトナレバ。史書漫滅シ。傳ザレバ。考定ベキコトナ
シト。是三ナリ去シ明曆ノ頃。朝鮮國ノ三官使ニ正使任統。副使金世濂。從事官黃辰ナリ羅山子

②18オ

筆問スルノ因。コノ檀君ノ事ヲ問ニ。三使並ニ對コトアタハズ。シカモ
コレ宗ノ對馬守義成公取次。シカルニ兎角ノ辭ナキコトハ。分明ナラザ
ル故カ。又大唐ニ信ぜズト云ハ。中華歷代ノ史傳ノ中ニ。朝鮮三韓ノ分
詳ナリ。大率周ノ武王己卯ニ。殷ノ太師箕子ヲ朝鮮ニ封ズト云ヲ
以。初トシテ。檀君ノコトヲ載ズ。東國通鑑ニハ。檀君ノ次ニ。箕子朝鮮ト云テ。中國
化スルコトヲ述。大明ノ太祖皇帝ノ御宇ニ。朝鮮ノ學士權近入朝スル時ニ。皇帝
檀君ト云ヲ題トシテ。詩ヲ賦セシム。因吟シ出。其兩句ニ云。傳レ世
不知。幾。歷。年。曾。過。千。二。コノ詩ノ意モ。檀君一人ニ非コト
ヲ明。皇帝モ。コレヲ可ナリトシテ。叡慮穩ニ。世ノ人モ亦左アラント
ヲモヘリ。扱本朝ニ至。コレヲ

②18ウ

考ニ神代ノ卷ニ。素盞鳴尊御子五十猛神ヲ帥。新羅ノ國ニ降到。
曾戶茂梨ノ處ニ居。曾戶茂梨ハ新羅ノ地ノ名。或ハ云。人シカレ
ノ名ト。ツマビラカナラズ。又ハ荒芒ノ地ト。然ドモ。此ニ居玉ハ
シコトヲ欲ズシテ。又出雲ノ國ニ渡歸玉ヒシコトヲシルシ。又五十猛
神天降マス時ニ。多樹ノ種ヲ持テ。カノ韓地ニ植。又一處ニ韓郷ノ島トシルス。疏
餘ヲ持歸玉ヒ。ツイニ築紫ヨリ始テ大八洲ノ國ノ内ニ。播殖。青山ト
成スト云コトナシ。コノユヘニ。コノ命ヲ有功ノ神ト稱ズ。即紀伊國ニ
坐。太神是ナリ。按ズルニ紀州名神ノ郡伊曾大祈ノ社はナリ。蓋思ニ。初父ノ尊ニ隨テ新
始。ツギニ本朝ニ及玉フナルベシ。具ニハナヲカノ卷ノゴトシ。コレヲ以テミルトキハ。朝鮮トイヘトモ。我國ノ地
神始生育玉ヒシ國ナリ。思ニ仲哀天皇及神功皇后ニ住吉大明神ノ三韓

ヲウチシタガヘ玉ヘト。勸サ

②19オ

せ玉ヒシハ。本コノ因縁アルユヘカ。シカラズンバ。善神アニ佗國ヲ押
領スルコトヲ教玉ハンヤ。檀君タトヒ神仙ニシテ。千四十八年ノ壽ヲ保
コトアリトモ。已ニ是唐堯ノ世ニアタレバ。素盞鳥尊ニ後コト。大凡二
百十萬餘歲ナリ。然スナハチ。本朝ノ人素盞鳥及五十梟ノ神ノ畱在
功ヲ閣テ。イカンゾ季世。朦氣ナル檀君ヲ以。開祖トシテ。神國ト
稱ズルコトヲ得ンヤ。蓋檀君ト云モ。本朝ノ神ノ遊化シテカノ國ヲ中興
シ玉ヘルニヤ。村ヘカラズ。朝鮮三韓ノ名實變化。委ハ東國通
鑑ノゴトシ一ニコ、ニノベカタン

佛神感應錄卷第二終

②19ウ

(白丁) ②裏表紙見返 ②裏表紙

- (あべ みか 歴史文化学科)
- (おおくぼ みれい 横浜女子短期大学図書館)
- (つかもと あゆみ 生活機構研究科生活文化研究専攻修了生)
- (せきぐち しずお 歴史文化学科)